

平成 26 年（2014 年）御嶽山噴火非常災害対策本部
第 15 回本部会議

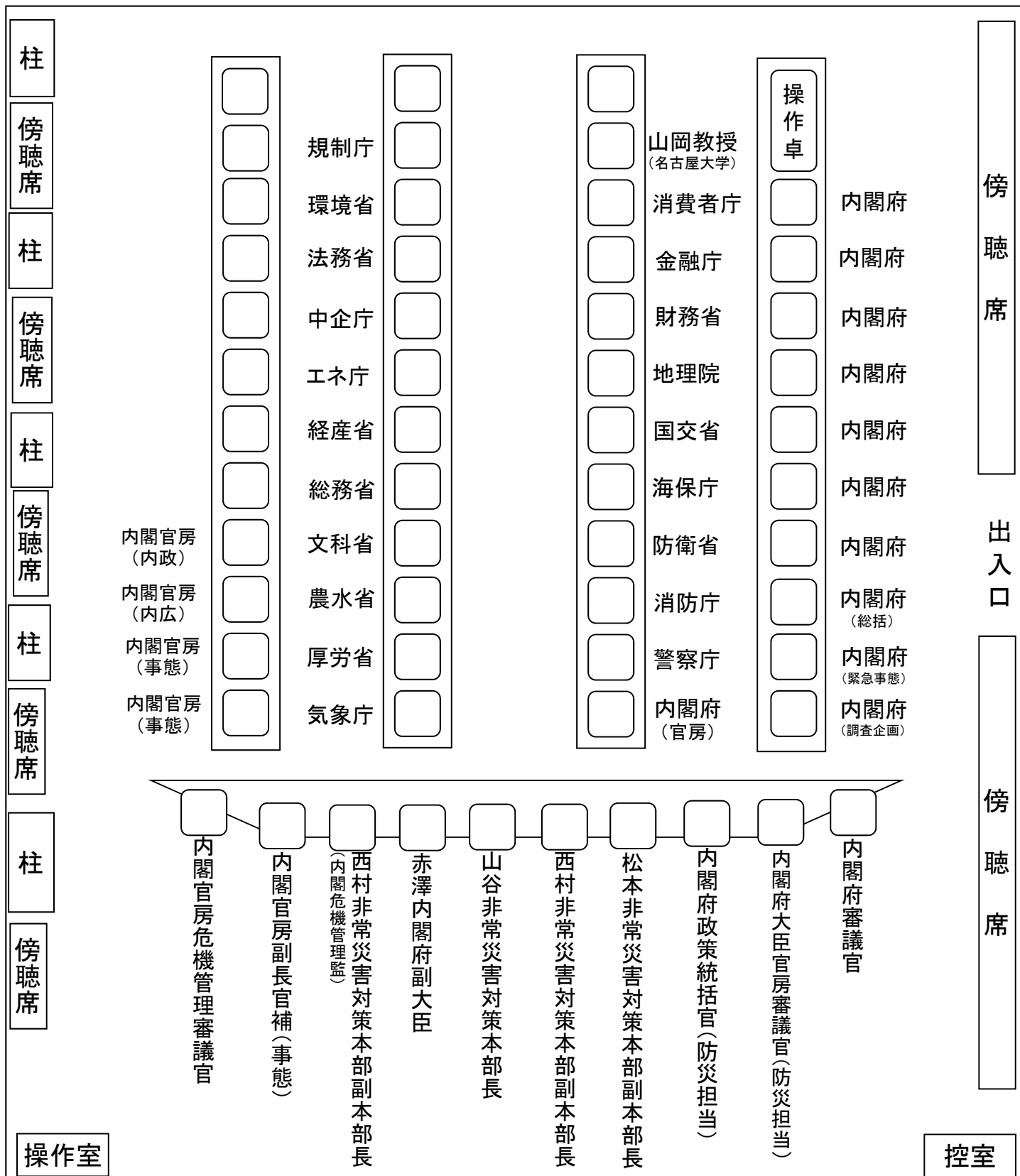
議 事 次 第

日時：平成 26 年 10 月 28 日（火）16：20～
場所：合同庁舎 8 号館 3 階災害対策本部会議室

1. 山谷非常災害対策本部長 挨拶
2. 今後の噴火活動の見通しについて
3. 各省庁の対応状況について
4. その他

平成26年(2014年)御嶽山噴火非常災害対策本部第15回本部会議 配席図

平成26年10月28日(火)16:20～
中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室



火山噴火に関して緊急的に行う主な被害防止対策

平成26年9月の御嶽山噴火では、火口周辺で多くの登山者が被災し、我が国の火山防災対策に関する様々な課題が整理されているところである。今回の噴火を教訓に、こうした火山災害を二度と起こさないよう、改めて、関係府省庁において以下の主な取組みを緊急的に行う。

火山噴火予知連絡会の検討会（気象庁）及び測地学分科会地震火山部会（文部科学省）の検討を踏まえて、中央防災会議 防災対策実行会議「火山防災対策推進ワーキンググループ」において検討
(平成26年度末とりまとめ)

- 【論点】
- ・火山監視観測体制
 - ・火山噴火からの適切な避難方策
 - ・火山専門家の知見の活用、育成
 - ・火山防災情報の伝達
 - ・火山防災教育や火山に関する知識の普及

★ 緊急の取組 ★

◎**緊急調査の実施**（関係地方公共団体に対して既に実施中、平成26年11月上旬とりまとめ）

- ・常時観測47火山における災害情報伝達手法、避難施設（退避壕・退避舎等）の整備状況・計画等に係る緊急調査

◎**常時観測47火山全てにおける火山防災協議会の設置**（平成26年度内）

- ・各火山防災協議会への国の職員の参画や、火山防災協議会等連絡・連携会議の定期的な開催などを通じ、各火山地域への働きかけを強化（現在33火山に設置済）

◎**登山者や旅行者に対する適切な情報提供と安全対策**

- ・登山者等に対する火山防災情報の提供のあり方を検討（平成26年度内）した上で、確実かつ迅速な情報伝達のため、携帯電話やサイレン等多様な手段の整備促進
- ・ホームページや旅行者等を通じて、安全確保に必要な最新の火山防災情報を登山者や旅行者に提供するとともに、御嶽山噴火に関しての風評被害を防止するための正確な情報を発信（既に実施中）
- ・火山における登山届の位置づけの明確化について地方公共団体に働きかけ（平成26年度内）

◎**火山観測体制の強化等**（火山噴火予知連絡会の検討会（気象庁）で平成26年11月に緊急提言）

（測地学分科会地震火山部会（文科省）で基本的な考え方を平成26年11月にとりまとめ）

- ・御嶽山噴火に関する総合調査、御嶽山の火山活動の推移を把握するための観測強化
- ・火口付近への観測施設増強の検討
- ・常時観測が必要な火山の見直し

★ 中期的な取組 ★

◎**避難施設の整備、救助体制の強化**

- ・登山者等の安全確保のため、地方公共団体における退避壕等の整備に対する支援拡充
- ・火山災害現場での救助・情報収集に必要な装備等の充実強化
- ・山岳救助活動のあり方に関する検討

◎**火山観測体制の更なる強化と調査研究の推進**（火山噴火予知連絡会の検討会（気象庁）で平成26年度末とりまとめ）

（測地学分科会地震火山部会（文科省）で基本的な考え方をとりまとめ）

- ・水蒸気噴火をより早期に把握できる手法の開発
- ・火山災害の軽減に貢献する研究の充実及び研究人材の育成方策を検討
- ・地震・火山観測施設のうち更新が必要な施設への計画的な対応

★ 継続的な取組 ★

◎**火山災害に対する防災教育の推進**

- ・山岳協会等と連携した、登山者に対する防災教育の実施に向けた検討
- ・指導方法の開発や防災アドバイザーの派遣等、学校における実践的な安全教育への支援を、火山地域においても重点的に実施

◎**火山防災訓練の推進**

- ・複数の地方公共団体や火山防災協議会メンバーが連携した訓練
- ・火山ハザードマップに即した訓練
- ・住民のみならず登山者や旅行者への迅速な情報伝達体制を確認する訓練

御嶽山の噴火状況等について

平成26年10月28日
15時00分現在
気 象 庁

1. 火山活動の状況(10月28日15時00分現在)

- ・御嶽山では、9月10日から11日にかけて体に感じない微小な火山性地震が一時的に増加したものの、その後、火山性地震は減少。
- ・9月27日11時41分頃から火山性微動が発生し始め、同11時52分頃に噴火が発生した。中部地方整備局設置の滝越カメラにより、南側斜面を火砕流が3キロメートルを超えて流れ下るのを観測。噴火警戒レベル3(入山規制)を発表し、火口から4キロメートル以内に立ち入らないように呼びかけ。噴火は現在も継続。
- ・御嶽山で噴火が発生したのは、平成19年(2007年)3月下旬のごく小規模な噴火以来。
- ・9月27日に気象庁が降灰の拡がりについて聞き取り調査を行った結果、御嶽山の西側の岐阜県下呂市萩原町から東側の山梨県甲府市飯田にかけての範囲で降灰を観測。
- ・9月27日の噴火前から連続して発生している火山性微動は検知できない程度の大きさになり、10月7日以降は観測されていない。(10月28日8時00分現在)
- ・傾斜計などの観測データに特段の変化はみられない。
- ・10月28日14時00分現在、噴煙は白色で、高さは火口縁上100メートルで南東に流れている。

2. 気象の見通し(10月28日15時00分現在)

- ・御嶽山山頂付近は、今日(28日)14時現在、20メートルの北西の風が吹いているとみられる。今日(28日)は北西の風15~20メートルの見込み。明日(29日)は、北西の風15メートル、夜には10メートル程度の見込み。
- ・今日(28日)、明日(29日)の気温は0度からマイナス1度の見込み。
- ・今日(28日)は西高東低の気圧配置が次第に緩み、西から高気圧が張り出してくるため、おおむね晴れる見込み。明日(29日)は高気圧に覆われ、晴れる見込み。

3. 気象庁の対応状況(10月28日15時00分現在)

- ・御嶽山の火山活動状況について、御嶽山周辺の地震計、空振計、傾斜計、遠望カメラ等の観測ネットワークにより、24時間体制で監視中。
- ・噴火警報等を発表するとともに、地元自治体をはじめ、関係機関に対する解説及び資料の提供を各地方気象台より適宜実施。
- ・気象庁機動調査班(JMA-MOT)を現地に派遣して、噴火や降灰の状況、火山ガスの観測等の調査を実施(9月27日)
- ・降灰の拡がりについて気象台から自治体等への聞き取り調査を適時に実施(9月27日~)
- ・火山活動状況に関して記者会見(9月27日14時30分)
- ・御嶽山山頂部における救助活動の実施にあたっての留意事項について長野・岐阜両県等関係機関に

周知(9月27日)。

- ・長野県の災害対策本部会議に職員を派遣(9月27日～)
- ・長野県、岐阜県、各県内関係市町村及び地方整備局等の関係機関に対して、1日3回、気象支援資料を提供
- ・国土交通省中部地方整備局及び陸上自衛隊のヘリに同乗し、上空から御嶽山の火山活動の状況を確認(9月28日)
- ・気象庁機動調査班により火山ガス観測等を実施(9月28日～)
- ・火山噴火予知連絡会拡大幹事会を開催し、統一見解を公表(9月28日)
- ・政府の現地対策本部に東京管区気象台気象防災部長他3名を派遣(9月28日～)
- ・王滝大又(長野県木曾郡王滝村)に臨時雨量観測所を設置(10月3日)
- ・航空自衛隊のヘリに同乗し、上空から御嶽山の火山活動の状況を確認(10月7日午前、9日午前、16日午前)
- ・気象庁ホームページに火山登山者向けの情報提供ページを新たに設け、10月10日17時から提供を開始
- ・火山噴火予知連絡会を開催し、御嶽山の活動状況などについて評価(10月23日)
- ・火山噴火予知連絡会 火山観測体制等に関する検討会を開催(10月24日)
- ・火山噴火予知連絡会 火山情報の提供に関する検討会を開催(10月27日)

【噴火警報等の発表状況】

9月11日～16日 火山の状況に関する解説情報を3回発表し、火山性地震が増加していること、今後の火山活動の推移に注意することを呼びかけ

9月27日12時00分～ 噴火に関する観測報を随時発表し、噴火が発生していることを通知

9月27日12時02分～ 航空路火山灰情報を発表し、航空機に対する情報を提供

9月27日12時36分 噴火警報(火口周辺警報)を発表し、周辺の市町村・住民に警戒を呼びかけ

9月27日13時35分～10月10日15時5分 降灰予報を約6時間毎に発表し、降灰の予想される地域を図示(火口縁上300m程度の有色噴煙が観測された場合に発表することとしているが、現在、噴煙の高さが低く、白色であるため、発表していない)

9月27日16時～10月17日21時 火山の状況に関する解説情報を概ね3時間毎に発表

10月18日～ 火山の状況に関する解説情報を1日2回(8時及び16時)発表

9月28日19時30分 噴火警報(火口周辺警報)を更新し、火砕流に対して警戒を呼びかけ

・噴火警戒レベル：レベル3(入山規制)

御嶽山の噴火警戒レベル3は、平成20年3月31日の噴火警戒レベルの運用開始以来初めて。

・警戒対象市町村

長野県：王滝村、木曾町

岐阜県：高山市、下呂市

・防災上の警戒事項

火口から4キロメートル程度の範囲では大きな噴石の飛散や火砕流に警戒が必要

風下側では4キロメートル以遠も含めて降灰及び風の影響を受ける小さな噴石

(火山れき)に注意が必要

爆発的な噴火に伴う大きな空振に注意が必要

御嶽山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

<噴火警戒レベル3（入山規制）が継続>

御嶽山の火山活動には低下傾向がみられるものの、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。また、噴気活動や地震活動等が活発化する場合には、火口周辺に大きな噴石を飛散させ、火砕流を伴うような噴火となる可能性があります。

遠望カメラによる観測では、10月10日以降、白色噴煙が観測されています。また、火山ガス観測によると二酸化硫黄の放出が継続しています。

【防災上の警戒事項等】

火口から4km程度の範囲では大きな噴石の飛散や火砕流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

10月24日から27日（15時）までの活動状況

・噴煙の状況（図1、表1）

遠望カメラによる観測では、10月24日以降、白色の噴煙が、火口縁上100～500mで概ね東に流れていましたが、26日18時頃からは、視界不良のため噴煙の状況は不明です。

・火山ガス（二酸化硫黄）の状況（図2、表1）

10月24日及び25日に山麓で実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量はいずれも1日あたりおおよそ100～200トン（速報値）で、噴火発生直後に比べやや少ない状態が続いています。

・地震・微動の発生状況（図2～図3、表1）

火山性地震は、噴火発生直後に比べて減少し、やや少ない状態で推移しています。

火山性微動は、検知できない大きさになった10月7日以降は観測されていません。

・地殻変動の状況

地殻変動観測データには、特段の変化はみられません。

次回の火山活動解説資料の発表は10月31日（金）を予定しております。

なお、火山活動の状況に変化があった場合には随時発表します。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』『数値地図25000（地図画像）』を使用しています（承認番号：平23情使、第467号）。



図1 御嶽山 噴煙の状況
 （10月25日11時 剣ヶ峰の南東約14kmの三岳黒沢遠望カメラによる）
 ・25日11時現在、噴煙の高さは火口縁上500mで東に流れていました。

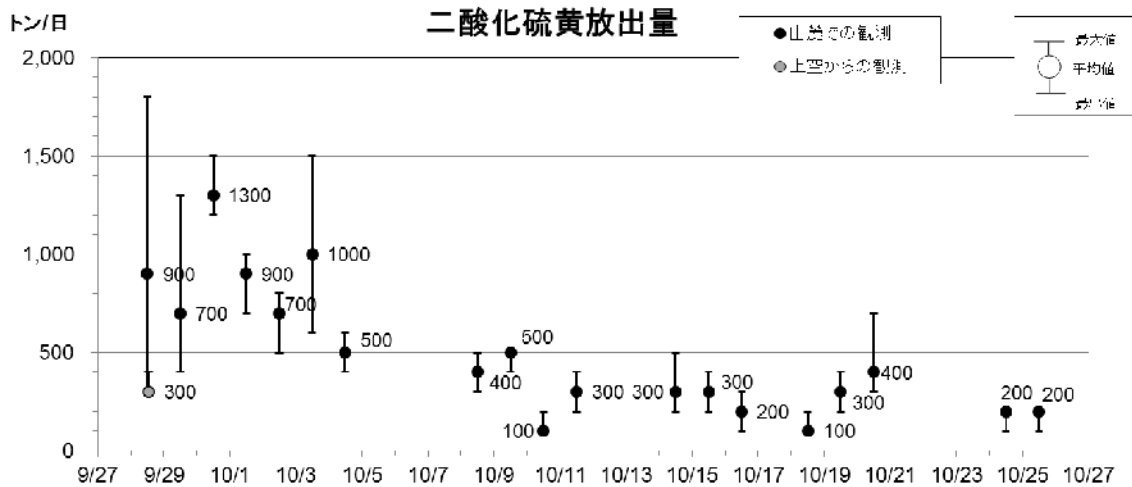


図2 御嶽山 火山ガス（二酸化硫黄）観測結果（9月28日～10月26日）
 ・24日及び25日に山麓で実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1日あたりおよそ100～200トン（速報値）で、噴火発生直後に比べやや少ない状態が続いています。

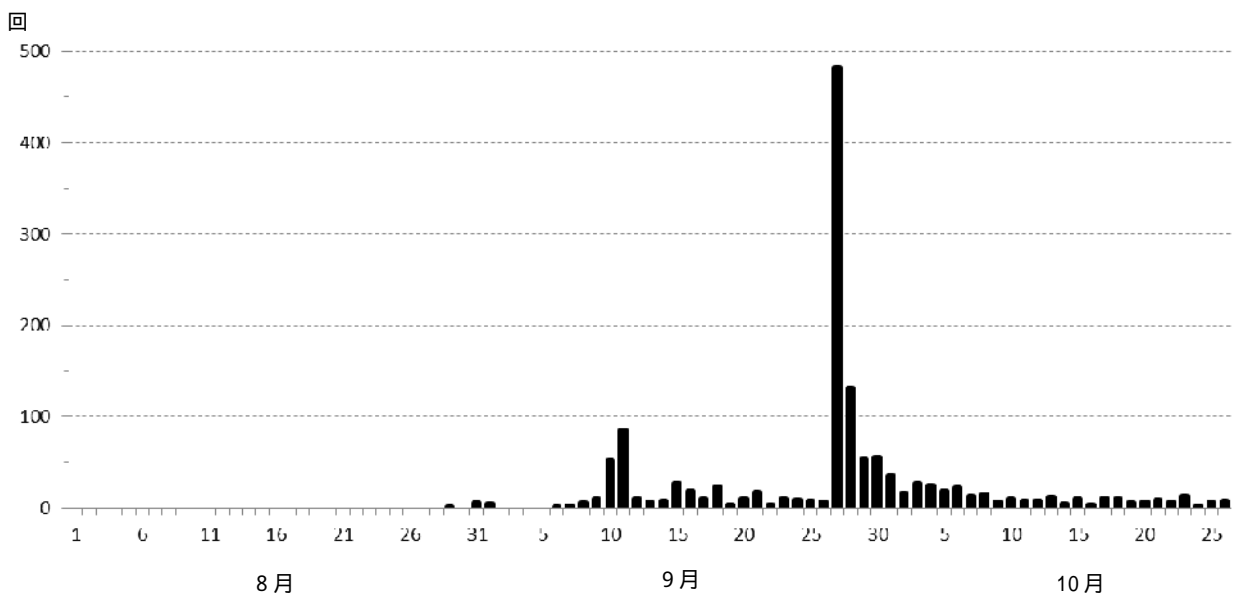


図3 御嶽山 日別地震回数（2014年8月1日～10月26日（速報値含む））
 ・火山性地震は、噴火発生直後に比べて減少し、やや少ない状態で推移しています。

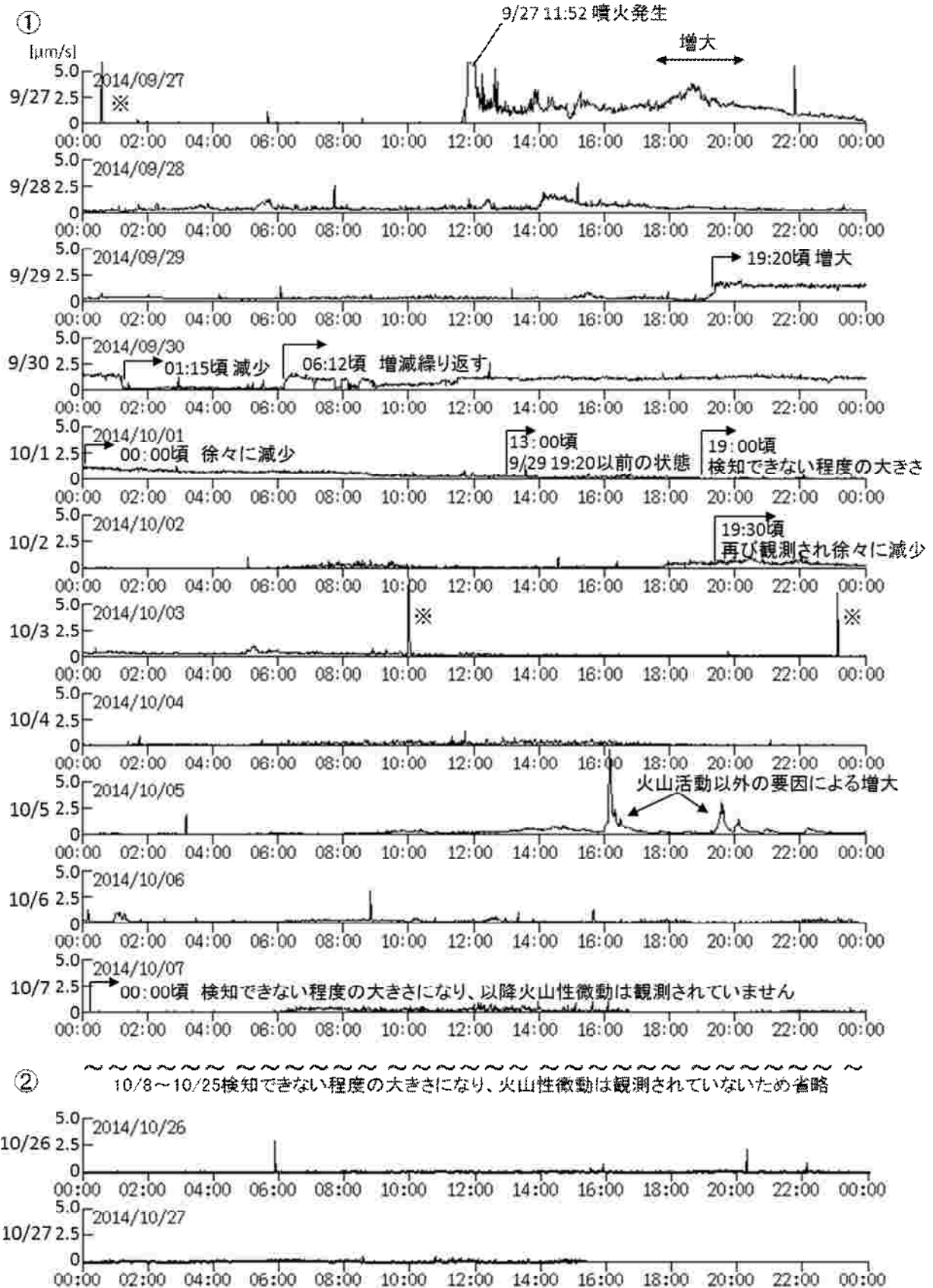


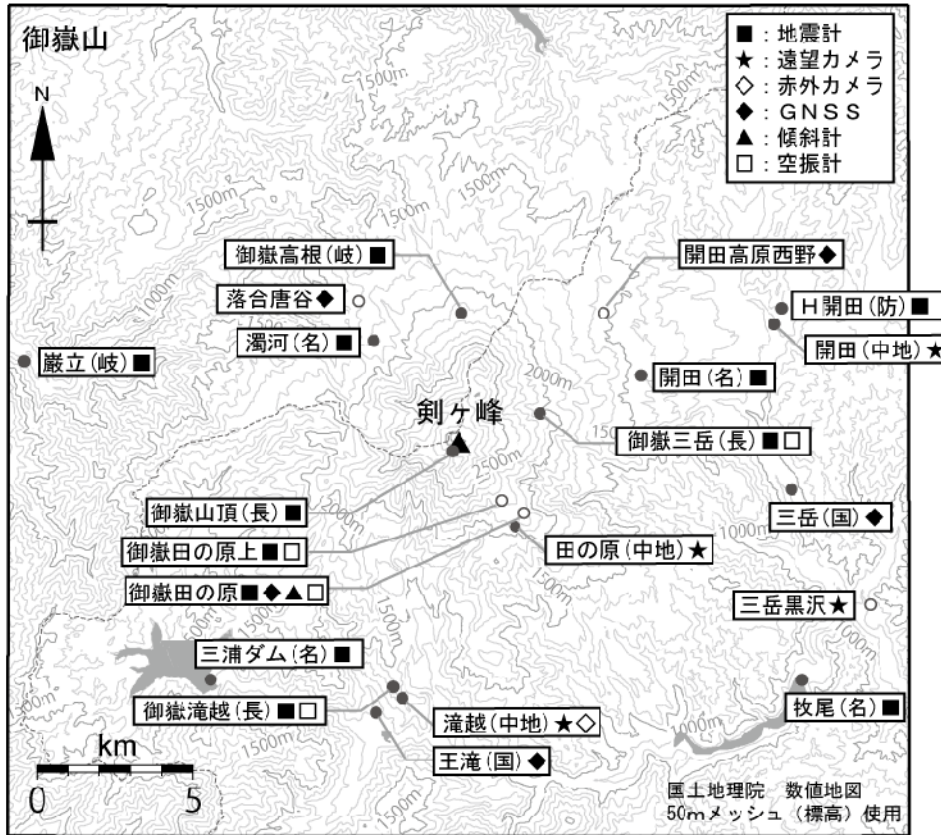
図 4 御嶽山 田の原上観測点（剣ヶ峰の南東約 2 km）の上下動地震波形の 1 分間振幅平均値の推移
 期間 2014 年 9 月 27 日 00 時～10 月 7 日 24 時 00 分
 期間 2014 年 10 月 26 日 00 時～10 月 27 日 15 時 20 分
 火山活動以外の地震による
 ・火山性微動は、検知できない大きさになった 10 月 7 日以降は観測されていません。

表 1 御嶽山 2014 年 9 月 9 日～10 月 26 日の火山活動状況

9月 9日～ 30日	噴火 回数	火山性 地震 回数	火山性 微動 回数	山頂火口の 噴煙の状況 ¹⁾		備 考
				日最高 (m)	噴煙量	
9日	0	10	0	-	-	
10日	0	52	0	-	-	
11日	0	85	0	×	×	
12日	0	10	0	-	-	
13日	0	7	0	-	-	
14日	0	8	0	-	-	
15日	0	27	0	-	-	
16日	0	18	0	×	×	
17日	0	10	0	-	-	
18日	0	24	0	-	-	
19日	0	3	0	-	-	
20日	0	10	0	-	-	
21日	0	17	0	-	-	
22日	0	3	0	×	×	
23日	0	10	0	-	-	
24日	0	9	0	-	-	
25日	0	8	0	×	×	
26日	0	6	0	×	×	
27日	1	483	1	×	×	11時52分頃噴火発生 南西側に火砕流流下、北東山麓を中心に降灰
28日	継続	131	継続	800	3	噴火継続 二酸化硫黄放出量300～1800トン/日
29日	継続	53	継続	400	2	噴火継続 二酸化硫黄放出量400～1300トン/日
30日	継続	56	継続	400	2	噴火継続 二酸化硫黄放出量1200～1500トン/日
合計	1	1040	1			
9月 合計	1	1052	1			

10月	噴火 回数	火山性 地震 回数	火山性 微動 回数	山頂火口の 噴煙の状況 ¹⁾		備 考
				日最高 (m)	噴煙量	
1日	継続	35	継続	400	2	噴火継続 二酸化硫黄放出量700～1000トン/日
2日	継続	16	継続	×	×	噴火継続 二酸化硫黄放出量500～800トン/日
3日	継続	27	継続	×	×	噴火継続 二酸化硫黄放出量600～1500トン/日
4日	継続	25	継続	300	1	噴火継続 二酸化硫黄放出量400～600トン/日
5日	継続	18	継続	×	×	噴火継続
6日	継続	23	継続	×	×	噴火継続
7日	継続	13	0	500	2	噴火継続
8日	継続	15	0	300	1	噴火継続 二酸化硫黄放出量300～500トン/日
9日	継続	6	0	×	×	噴火継続 二酸化硫黄放出量400～500トン/日
10日	継続	10	0	300	1	噴火継続 二酸化硫黄放出量100～200トン/日
11日	*	8	0	300	1	白色噴煙* 二酸化硫黄放出量200～400トン/日
12日	*	8	0	500	2	白色噴煙*
13日	*	12	0	×	×	
14日	*	4	0	×	×	二酸化硫黄放出量200～500トン/日
15日	*	10	0	×	×	二酸化硫黄放出量200～400トン/日
16日	0	3	0	200	2	白色噴煙 二酸化硫黄放出量100～300トン/日
17日	0	11	0	300	2	白色噴煙
18日	0	10	0	400	1	白色噴煙 二酸化硫黄放出量100～200トン/日
19日	0	5	0	1000	3	白色噴煙 二酸化硫黄放出量200～400トン/日
20日	0	7	0	×	×	二酸化硫黄放出量300～700トン/日
21日	0	9	0	×	×	
22日	0	7	0	×	×	
23日	0	13	0	×	×	
24日	0	2	0	300	1	白色噴煙 二酸化硫黄放出量100～200トン/日
25日	0	6	0	300	1	白色噴煙 二酸化硫黄放出量100～200トン/日
26日	0	8	0	×	×	
合計	1	311	1			

- * 少量の火山灰を含んでいる可能性があるが遠望カメラでは確認できない程度の状況
- 1) 噴煙の高さ及び噴煙量は日最大値（噴火時以外は定時観測（09時・15時）の値）です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。
- 1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量
 7：噴煙量6以上の大噴火で、噴煙が山体を覆う位に多く噴煙の高さは成層圏まで達したと思われるもの
 -：噴煙なし ×：不明



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(中地) : 中部地方整備局、(防) : 防災科学技術研究所、(名) : 名古屋大学、
 (長) : 長野県、(岐) : 岐阜県

図 5 御嶽山 観測点配置図

復旧担当者・被災者向け気象支援資料（長野県王滝村）

平成26年10月28日 11時00分

御嶽山頂付近（高度約3000m）の風及び気温の予想

時	28日					29日			
	12時	15時	18時	21時	24時	3時	6時	9時	12時
風向	西北西 ➡	北西 ➡	北西 ➡	西北西 ➡	西北西 ➡	西北西 ➡	西北西 ➡	西北西 ➡	西北西 ➡
風速 (m/s)	22	21	18	16	15	14	14	13	13
気温 ()	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	0

風向 ・ 0m/s 1-4m/s 5-9m/s 10m/s以上

この予想は、数値予報による高度約3000mの予想です。日射の影響等により、実際の山の気象状況とは異なる場合がありますのでご注意ください。

長野県の天気解説

28日は、西高東低の気圧配置が次第に緩み、西から高気圧が張り出してくる見込みです。
このため、おおむね晴れるでしょう。

王滝村付近の天気

日 / 気温	28日 / 日中の最高11				29日 / 朝の最低 -3			
時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-3時	3-6時	6-9時	9-12時
天気								
3時間雨量 (ミリ)	0	0	0	0	0	0	0	0
気温 ()	9	9	3	0	-1	-2	-2	4
風向		・						
風速 (m/s)	1	0	2	1	2	2	2	3

風向 ・ 0m/s 1-4m/s 5-9m/s 10m/s以上

気温は各時間帯の初めの時間の予想値です。例えば18-21なら18時の予想値です。

復旧担当者・被災者向け気象支援資料（長野県王滝村）

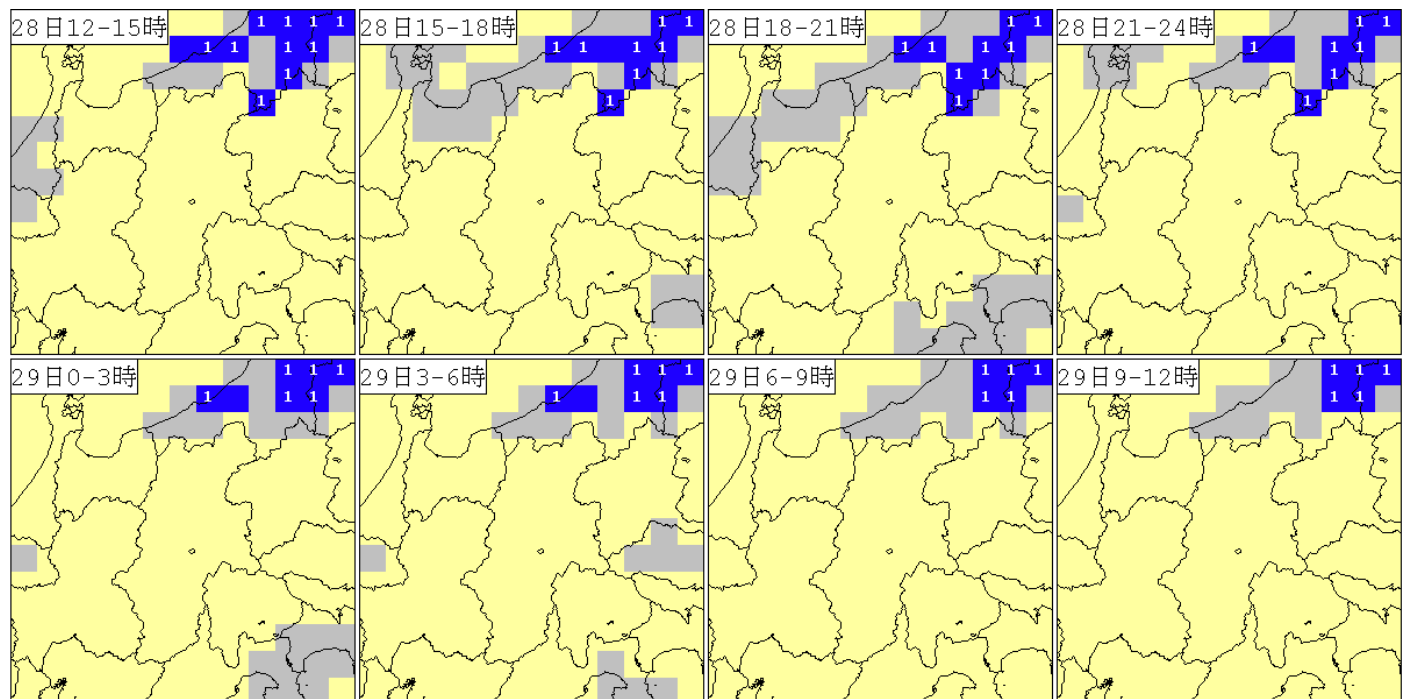
平成26年10月28日 11時00分

週間天気予報（長野県 気温：長野）

日	29日(水)	30日(木)	31日(金)	1日(土)	2日(日)	3日(月)	4日(火)
天気	晴 ☀️	晴時々曇 ☀️☁️	晴時々曇 ☀️☁️	曇時々晴 ☁️☀️	曇一時雨 ☁️☔️	曇一時雨 ☁️☔️	曇時々晴 ☁️☀️
降水確率(%)	0/0/0/0	10	20	30	50	50	30
最高気温()	16	19	20	21	21	17	12
最低気温()	3	3	6	7	10	9	3

降水確率の1日目は、0-6/6-12/12-18/18-24時です。

長野県付近の天気分布予報



天気：☐晴れ ☐曇り ☐雨 ☐範囲外 数字は雨格子の3時間雨量 1(1~4ミリ) 5(5~9ミリ) 10(10ミリ以上)

1 - 2 気象庁

報道発表資料
平成26年10月23日
気象庁

第130回火山噴火予知連絡会 御嶽山の火山活動に関する検討結果

御嶽山の火山活動には低下傾向がみられるものの、今後噴気活動や地震活動等が活発化する場合には、火口周辺に大きな噴石を飛散させ、火砕流を伴うような噴火が発生する可能性があります。

御嶽山では、9月27日に水蒸気噴火が発生しました。噴火は剣ヶ峰山頂の南西側に新たに形成された北西から南東に伸びる火口列で発生し、大きな噴石が火口列から約1キロメートルの範囲に飛散しました。また、火砕流が発生し、火口列から、南西方向に約2.5キロメートル及び北西方向に約1.5キロメートル流下しました。火砕流は発生しましたが、地獄谷付近では樹木が焦げたような痕跡は認められませんでした。

9月27日以降、活発な噴煙活動と連続的な火山灰の放出が続きましたが、10月11日以降は火山灰を含む有色の噴煙は観測されず、噴煙活動も徐々に低下してきています。

二酸化硫黄の放出量は、噴火発生直後から10月3日までは1日あたりおよそ500トンから1500トンと多い状態で推移しましたが、その後は1日あたりおよそ100トンから500トンとやや少ない状態となっています。

火山性微動は振幅の増減を繰り返していましたが、10月7日以降は検知できない程度の大きさになっています。火山性地震は噴火発生直後には多発しましたが、その後は次第に減少してきています。

御嶽山東麓の水準測量では、2006年から2013年にかけて隆起が観測されていましたが、噴火後の測量で沈降が観測されました。なお、傾斜計でも、噴火直前に山側上がりの変化がみられ、噴火とともに山側下がりとなりました。

以上のことから、火山活動には低下傾向がみられるものの、火口列からの噴煙活動や地震活動が続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

また、噴気活動や地震活動等が活発化する場合には、火口周辺に大きな噴石を飛散させ、火砕流を伴うような噴火となる可能性があります。積雪期に火砕流が発生したり、熱水が流出したりした場合には、火山泥流が発生する可能性があります。

今後も噴気活動や地震活動、地殻変動等のデータを注意深く見守る必要があります。

引き続き、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振に注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

【本件に関する問合せ先】気象庁地震火山部火山課

電話 03-3284-1749



第 2 図 御嶽山 噴煙の状況
(中部地方整備局の滝越カメラによる。2014 年 9 月 27 日 11 時 56 分)
・山の南西方向に火砕流が 3 km 程度流下した。



第 3 図 御嶽山 噴火発生前後の状況 (2014 年 9 月 27 日 11 時 50 分と 12 時 40 分の比較)
(中部地方整備局設置の滝越カメラによる)
・山の南西側斜面を火砕流が 3 km を超えて流下した。右図四角枠内に火砕流が堆積している。

3. 投出岩塊(噴石)の分布状況

投出岩塊の分布状況を今回撮影した写真から大まかに推定し、A~Cの3ゾーンに区分した(図3)。基本的には火口からの距離によって分布密度が低下する。火口に近いAゾーンでは、極めて高い密度で投出岩塊が分布している(~10個以上/4mx4m)。写真で識別できない小さいものを含めると、この領域ではきわめて大量の放出岩塊が降下したことが推定される。Cゾーンより外側には写真で識別できるようなサイズのもの存在しない。

インパクトクレーターの大きさは直径10cm~1m程度である。このようなインパクトクレーターをつくっている投出岩塊の大きさはクレーター外に転がり出た岩塊等も参考にすると拳大から人頭大と思われる(最高で50~60cm?)。

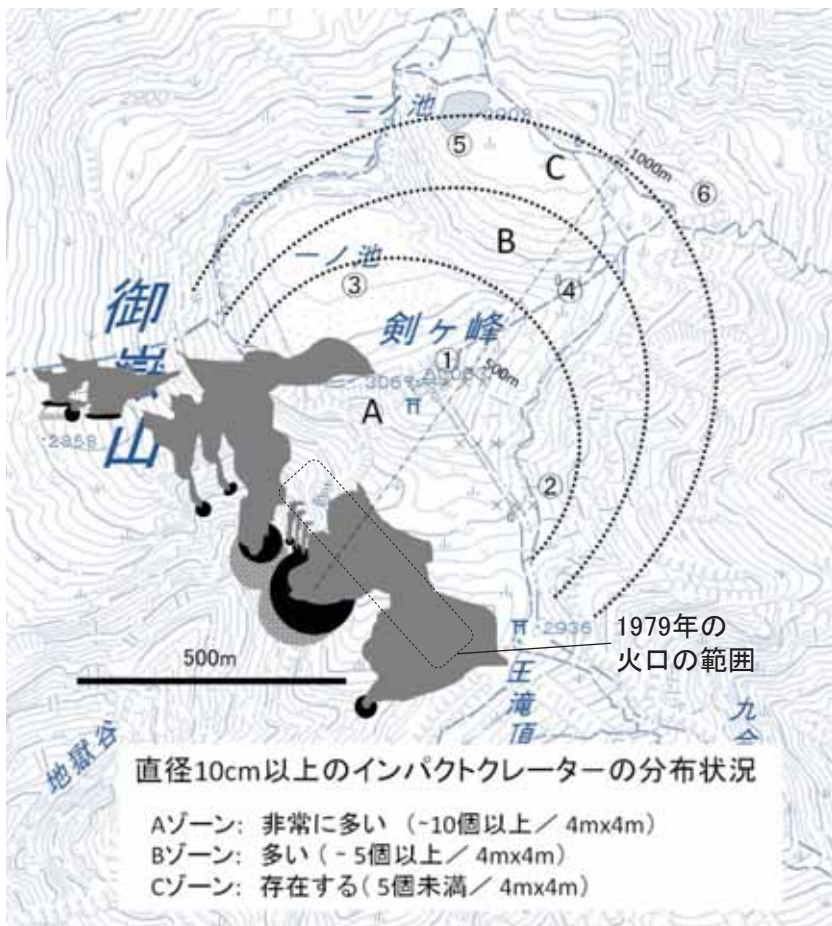


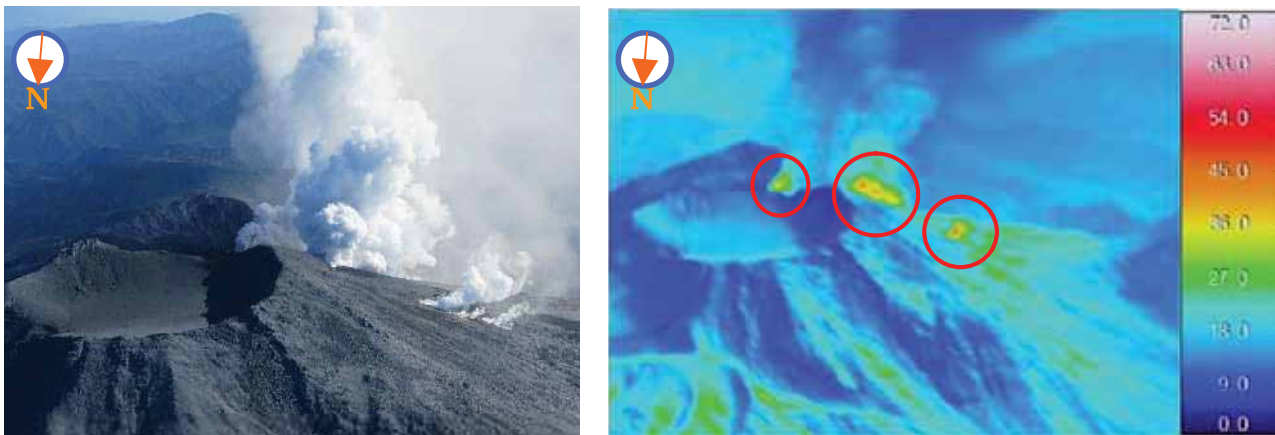
写真7. ① Aゾーン/御嶽山頂山荘。

図3 投出岩塊の分布状況。番号は写真の場所を示す。×は確認された被災者の位置。※ 十分な写真データがなく誤差は大きい。この図の作成には地理院地図(電子国土Web)を使用した。

最大到達距離を1000m(図3)として、空気抵抗なし、打出し各45度として弾道計算をすると、初速度は約100m/S程度と見積もられる。



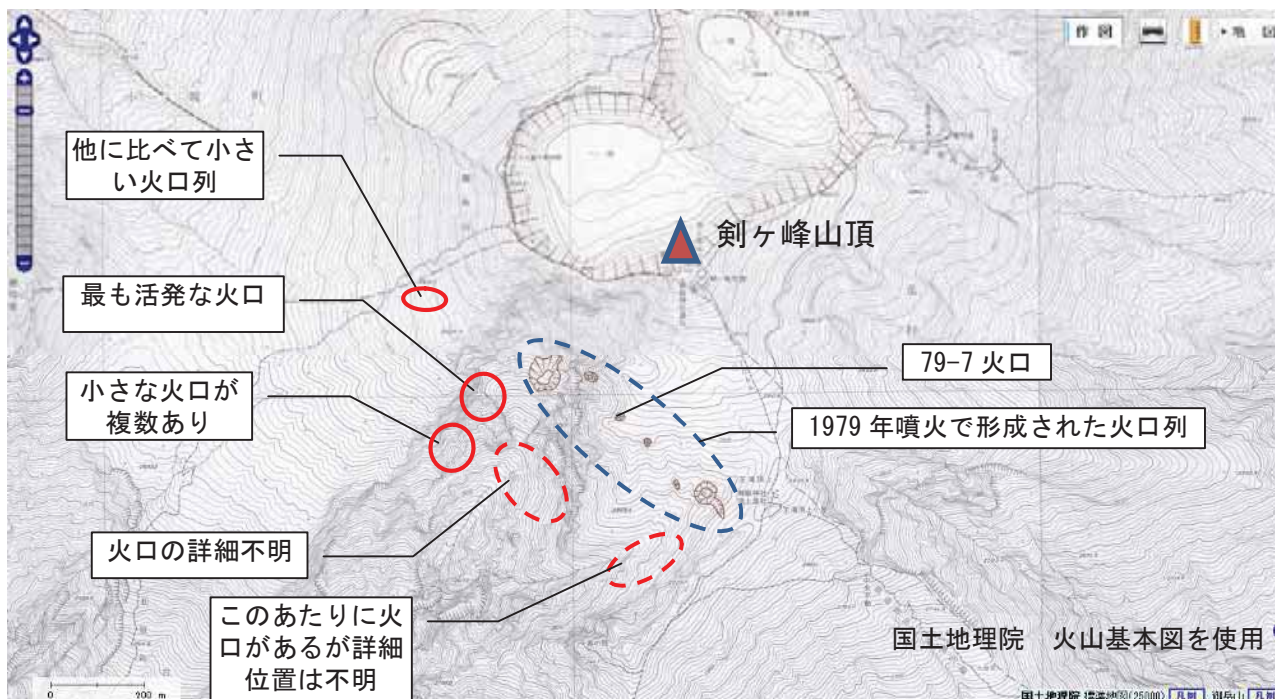
第1図 御嶽山 火口の位置と火砕流の先端が到達したと思われるおおよその位置
(2014年9月28日 陸上自衛隊の協力による上空からの観測により気象庁で解析)
・火口列から南西側約2.5 km、北西側約1.5 kmまで流下したとみられる。



第 9 図 御嶽山 赤外熱映像装置による山頂付近の観測

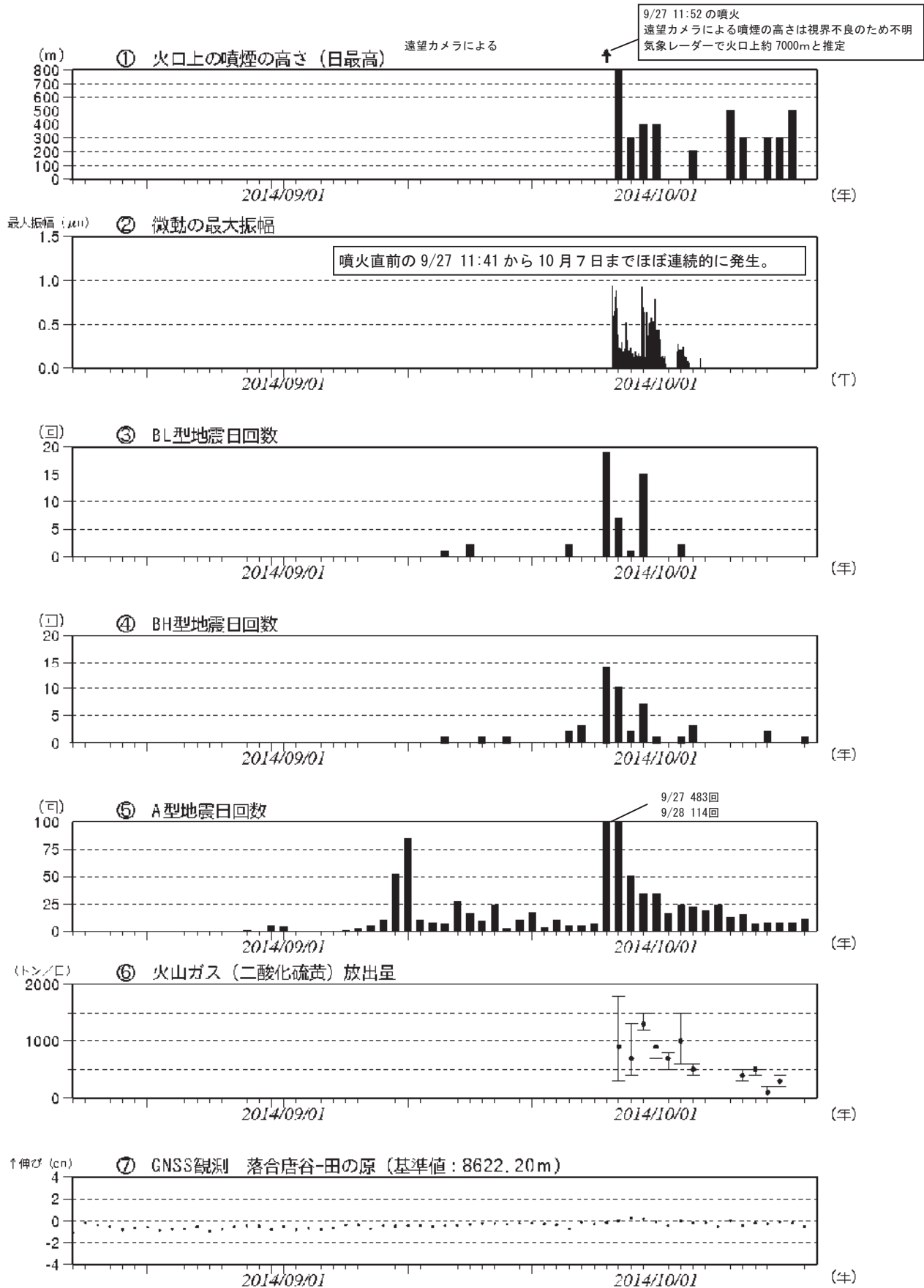
(2014 年 9 月 28 日 15 時 30 分、陸上自衛隊の協力により山頂北側の上空海拔約 3,600m から撮影)

- ・ 剣ヶ峰の南西側で、活発な噴煙が上がっている主に 3ヶ所（右図円内）の高温域を観測した。
- ・ 噴火口周辺を除いては、日射の影響があるものの地熱域は特に認められなかった。

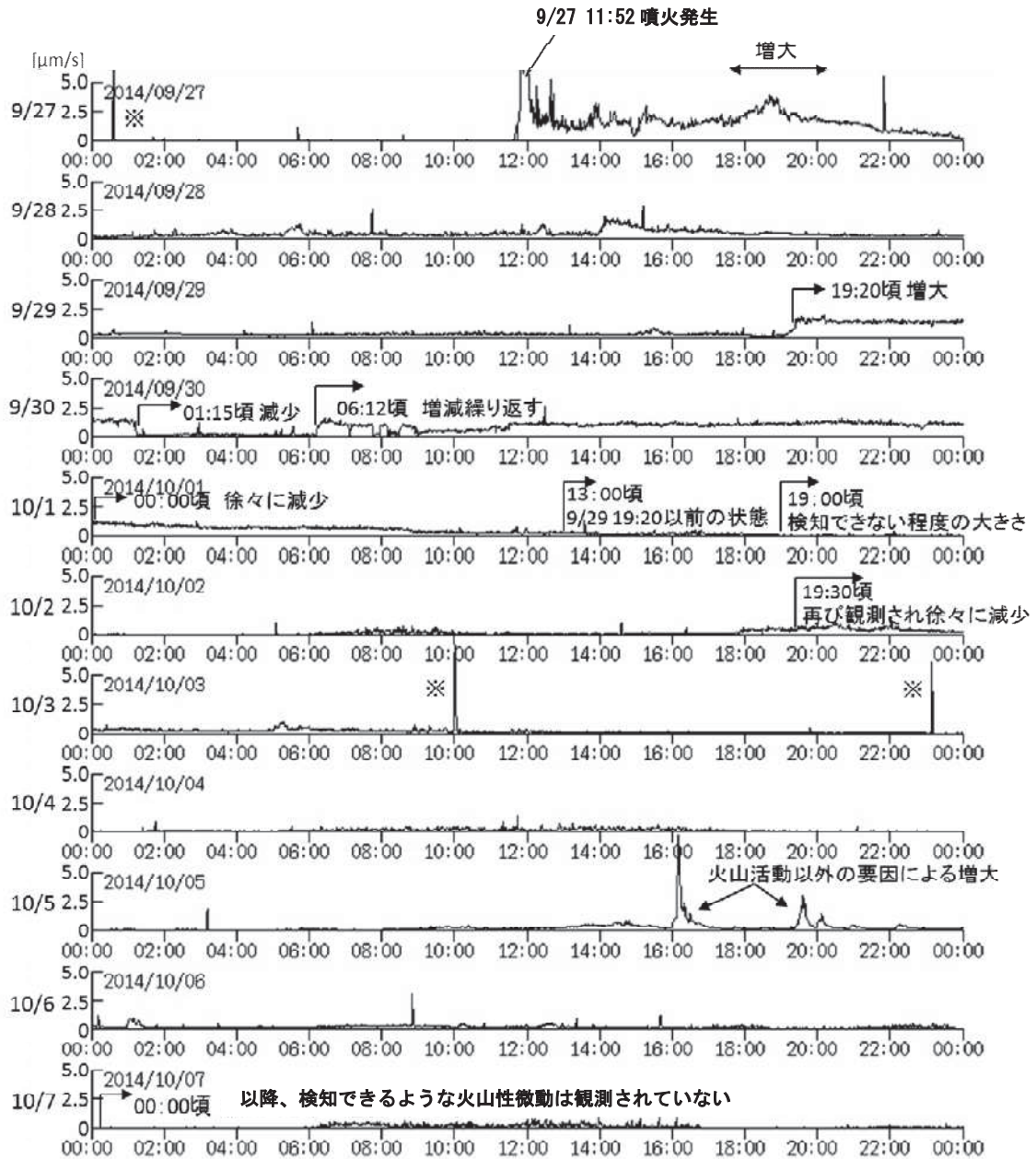


第 10 図 御嶽山 火口位置

- ・ 剣ヶ峰山頂の南西側に北西から南東に伸びる火口列が形成されていた。



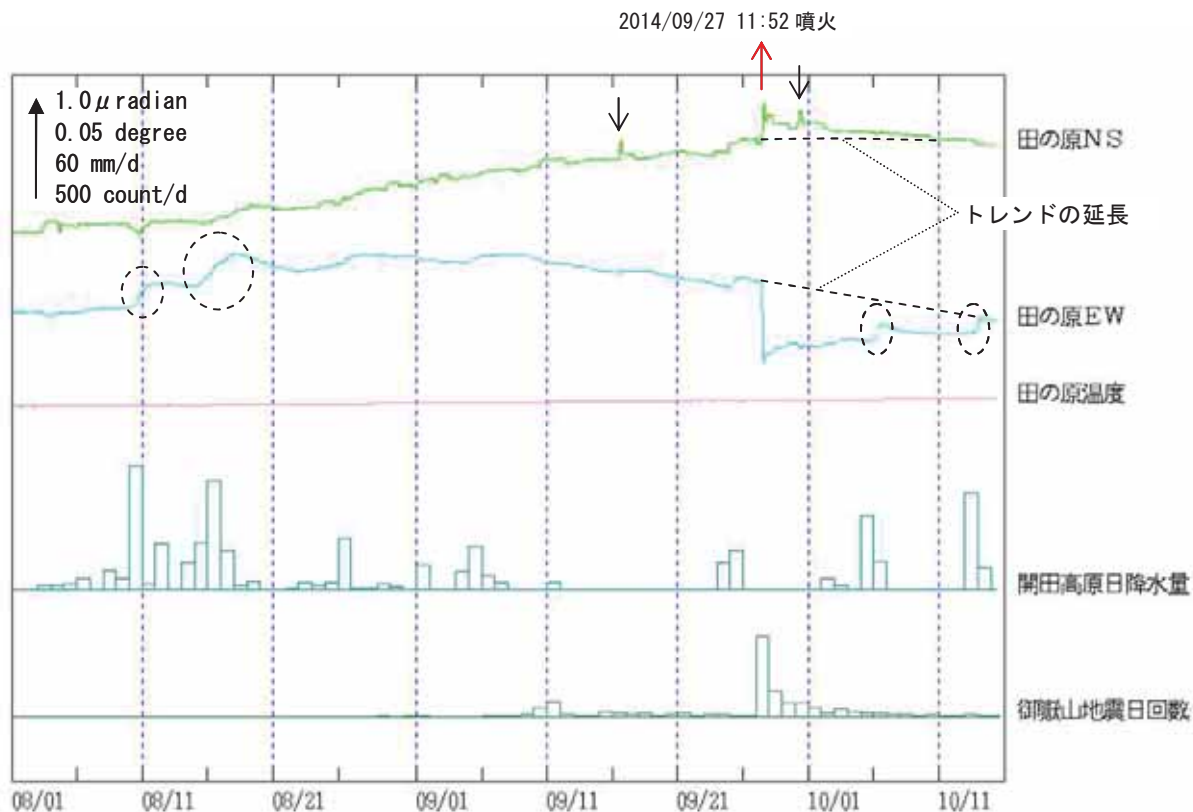
第 20 図 御嶽山 日別地震回数 (2014 年 8 月 15 日～10 月 13 日 (速報値含む))



第 21 図 御嶽山 田の原上観測点（剣ヶ峰の南東約 2 km）の
上下動地震波形の 1 分間振幅平均値の推移
(2014 年 9 月 27 日 00 時～10 月 7 日 24 時 00 分)

- ・ 噴火発生の 11 分前の 9 月 27 日 11 時 41 分頃から火山性微動が発生し、振幅の増減を繰り返しながら続いた。10 月 1 日 19 時頃からは検知できない程度の大きさになったが、10 月 2 日 19 時 30 分頃から再び観測され始めた。その後振幅は小さいながらも継続していた。10 月 7 日以降は、検知できるような火山性微動は観測されていない。

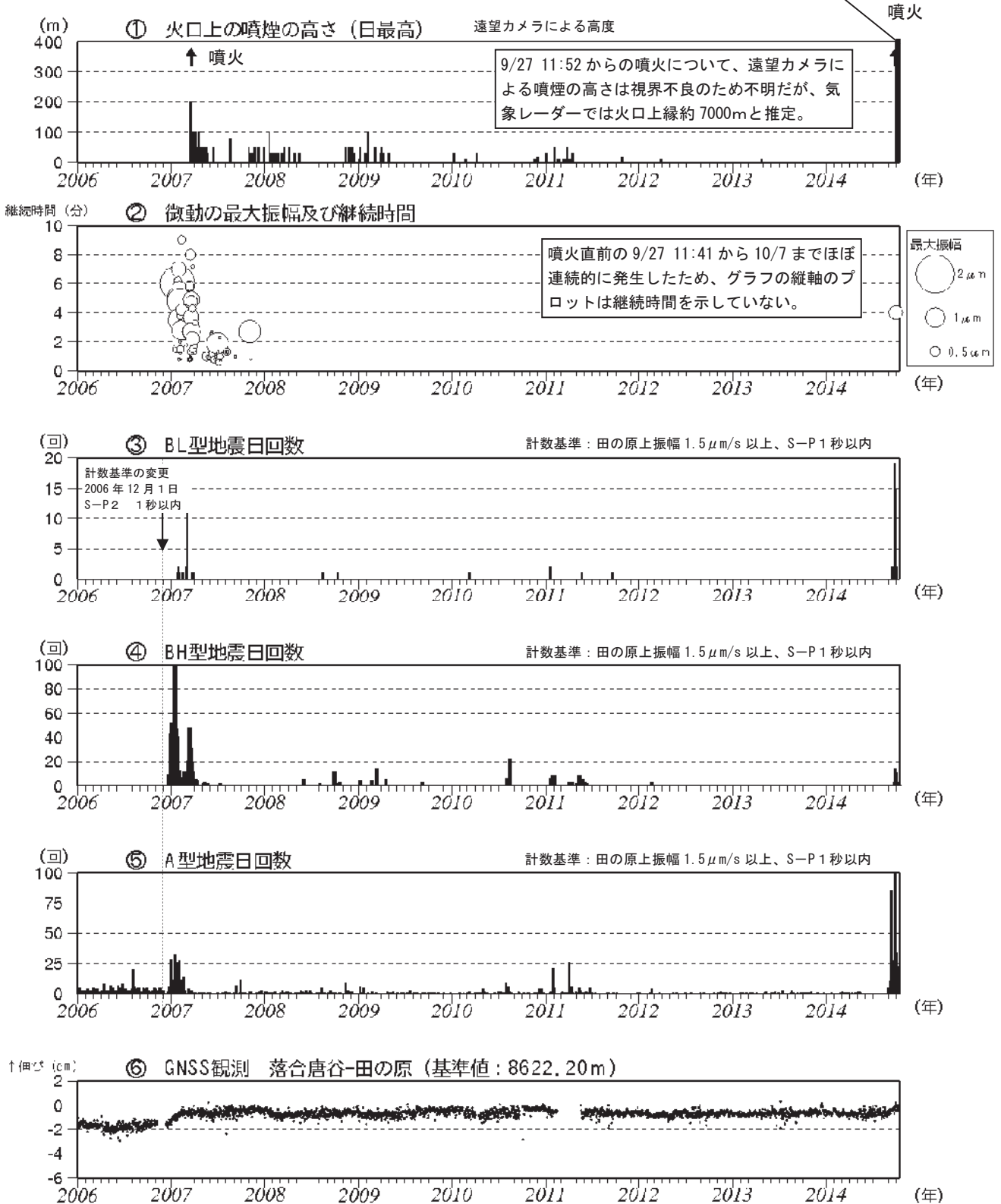
※ 火山活動以外の地震による。



第 27 図 御嶽山 田の原観測点（剣ヶ峰南東約 3 km）の傾斜変動
 (2014 年 8 月 1 日 00 時～10 月 16 日 00 時、時間値、潮汐補正済み)

- ・ 剣ヶ峰山頂の南東 3 km の田の原観測点で、北西上がり（山側上がり）の変化を、その約 7 分後の 11 時 52 分頃に南東上がり（山側下がり）の変化を観測している。その後変位は戻りつつあるが、噴火前の状態までは戻っていない。
- ・ 田の原観測点では、しばしば原因不明のステップがみられる（図中下向き矢印）。
- ・ 主に東西成分に降水によるとみられる変動が現れている（図中点線丸印）。

カメラのよる最高高度
は火口縁上 800m (9/28)



第 33 図 御嶽山 最近の火山活動経過図 (2006 年 1 月 1 日~2014 年 10 月 13 日)

2010 年 10 月以降の GNSS データについては解析方法を改良し、対流圏補正と電離層補正を行っている。なお、解析には、IGS (International GNSS Service: 国際 GNSS 事業) から提供される超速報暦を用いている。

図中⑥は第 36 図の GNSS 基線②に対応し、空白期間は欠測を示す。

- ・ 2007 年 3 月後半の噴火前に山体膨張の地殻変動がみられ、火山性地震が増加し、微動が観測された。
- ・ ②の基線において、2014 年 10 月中旬までのデータの解析により、2014 年 9 月上旬頃以降ごくわずかな変化があることがわかった。このような基線変化は地殻変動の他、気象擾乱等でも生じることがある。

精密水準測量による御嶽山における上下変動(2006年4月-2014年10月)

日本大学文理学部・名古屋大学・京都大学・九州大学・北海道大学・東濃地震研究所

名大・他では1990年代後半から御嶽山東麓における路線で水準測量を実施している。2014年噴火後の10月15日~17日に再測量と路線の拡張をおこなった。既存の全路線の最後の測量は2007年4月であり、2007年4月—2014年10月の上下変動を求めた。上松(BM34)を不動点として、木曾温泉の北西端(BM317)で約14mmの沈降(山頂方向が沈降)が検出された(図1・2)。路線の一部だけの測量(図3)も加え、上下変動の時間的変化を検討すると、2006年以降山頂方向が隆起する変動パターンになっていることが明らかとなった(図4)。また短い区間の測量ではあるが2013年の測量結果から、山頂隆起が2013年まで継続していたことがと示唆された(図5(b))。今回の測量で、BM25を不動点とした場合、2006—2009年に山頂方向が隆起した量に相当する量の山頂方向の沈降が検出された(図4・図5(a))。

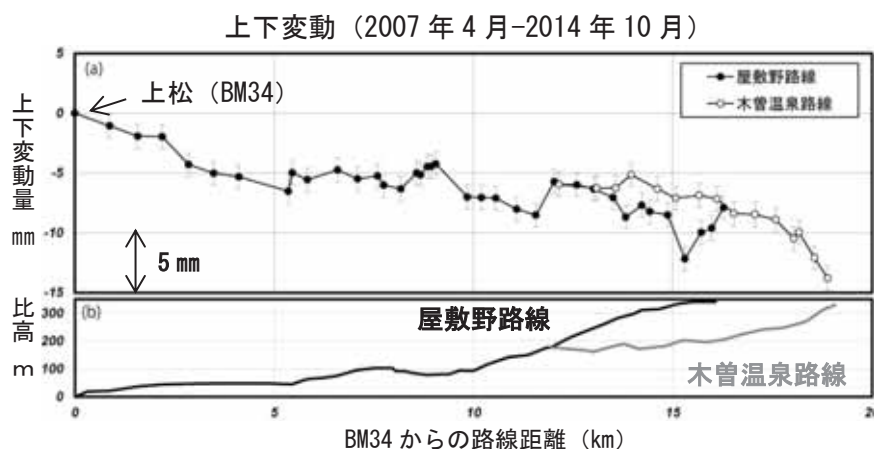


図1. 御嶽山における2007年4月から2014年10月の上下変動(a)と路線の比高(b)。変動はBM34(上松)を不動点とした。路線のほぼ全体でなだらかな沈降を示し、木曾温泉路線の北西端で14mm、屋敷野路線の北西端で8mmに達する。木曾温泉路線北西端までの往復差の積算量は±1.7mmである。

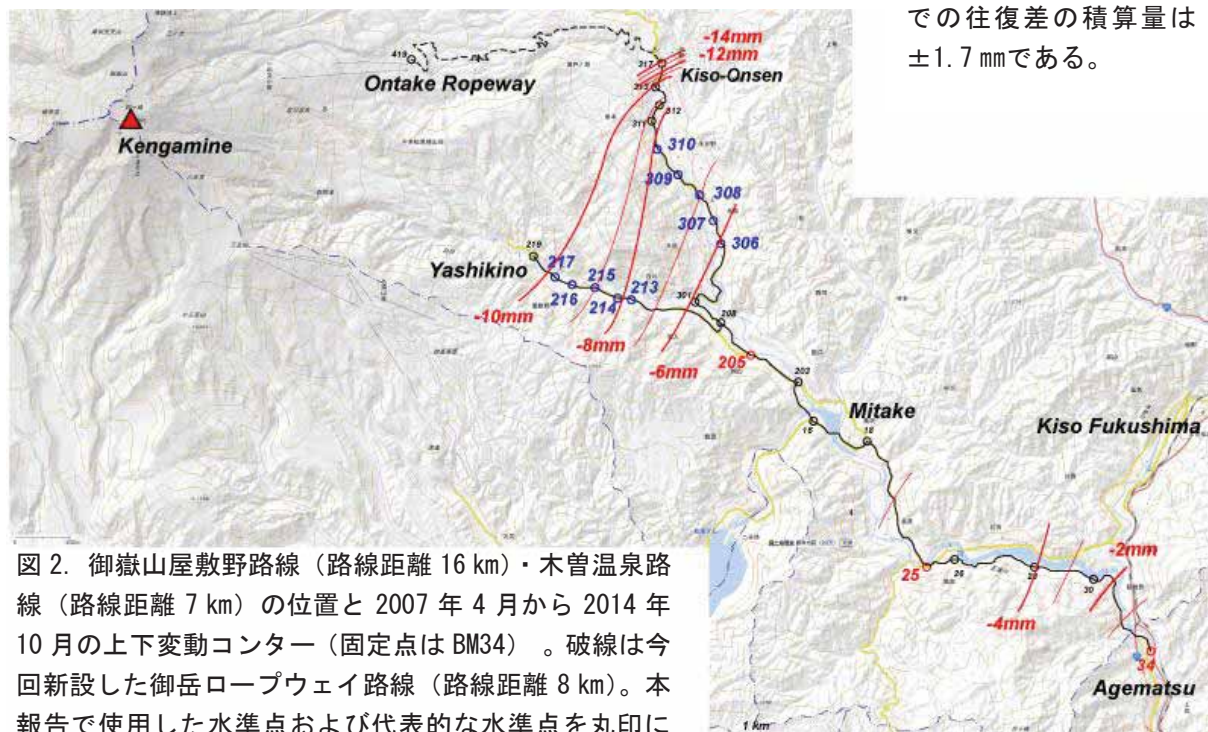


図2. 御嶽山屋敷野路線(路線距離16km)・木曾温泉路線(路線距離7km)の位置と2007年4月から2014年10月の上下変動コンター(固定点はBM34)。破線は今回新設した御岳ロープウェイ路線(路線距離8km)。本報告で使用した水準点および代表的な水準点を丸印にて示す。赤丸は図1~5にて不動点として使用した水準点、青丸は図5で時間変化を示した水準点である。(地図は電子国土ポータルによる)

測量担当者 (2014年10月)

村瀬雅之(日大)、山中佳子、堀川信一郎、松廣健二郎(名大)、大倉敬宏、吉川慎、井上寛之、三島壮智、園田忠臣(京大)、松島健、内田和也(九大)、森濟(北大)、木股文昭、宮島力雄(東濃)

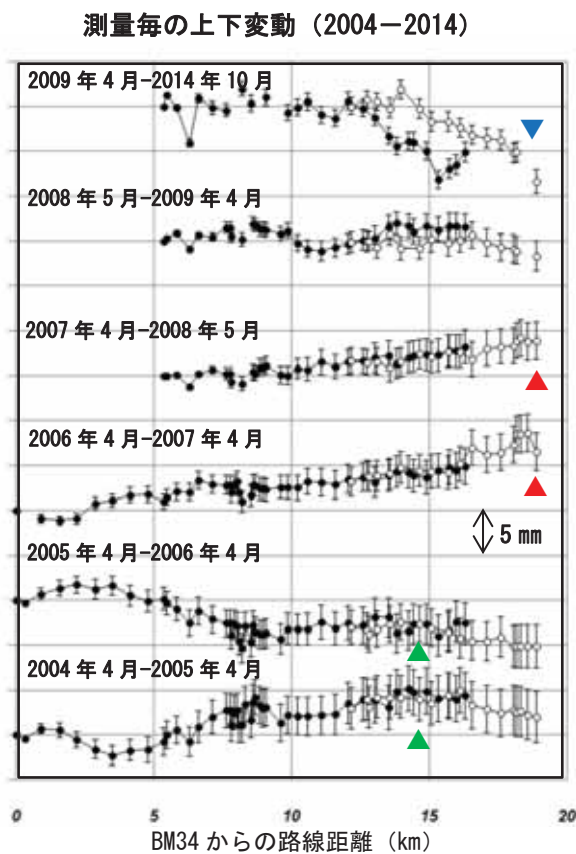


図 3. 2004 年からの測量毎の上下変動。2004 年～2006 年の変動は BM34 を 2006～2014 年の変動は BM25 を不動点とした。2006 年以前は群発地震域を中心とする隆起 (▲) が検出されていたが、2006-2008 年では山頂方向が隆起する傾向 (▲) に変化している。2014 年噴火をはさむ 2009-2014 年は山頂方向が沈降 (▼) した。

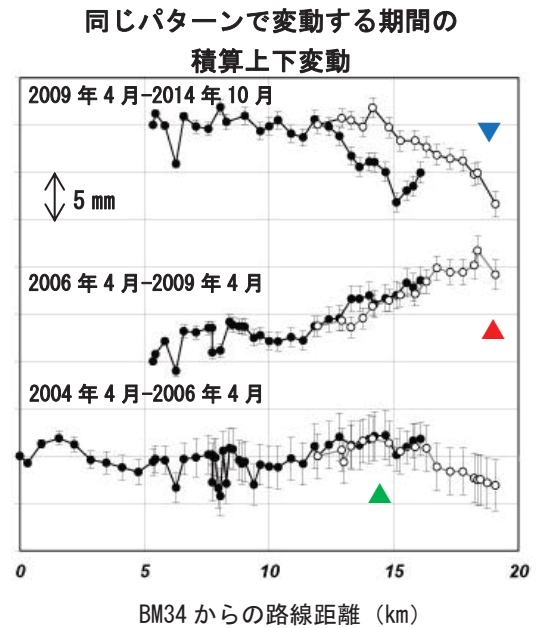


図 4. 同じパターンで変動する期間で積算した上下変動。2004 年～2006 年の変動は BM34 を 2006～2014 年の変動は BM25 を不動点とした。2004-2006 は群発地震域を中心とした約 3 mm の隆起 (▲) が見られ、2006-2009 年は山頂方向が約 1 cm 隆起 (▲)、2009-2014 年は山頂方向が約 1 cm 沈降 (▼) している。

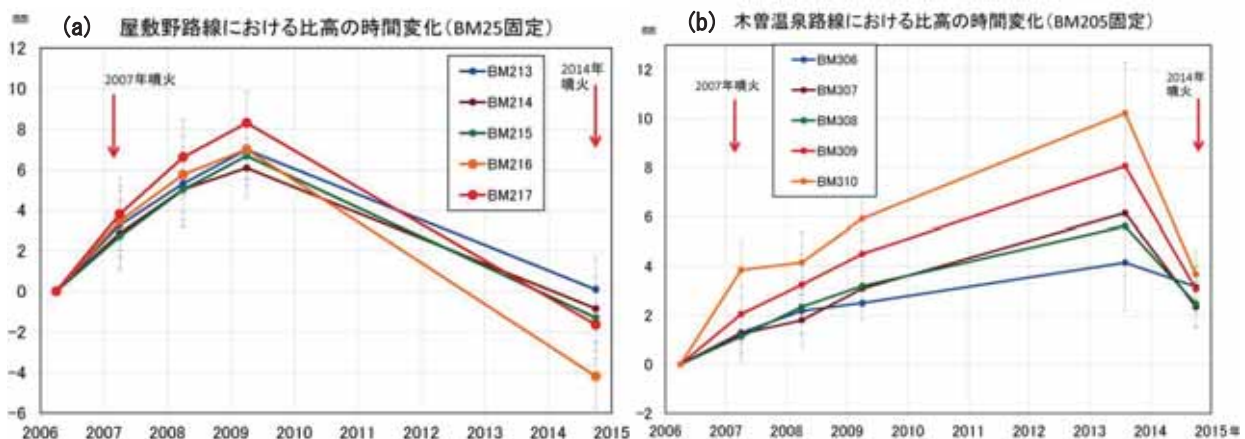


図 5. 屋敷野路線 (a) および木曾温泉路線 (b) における 2006 年以降の時間変化。屋敷野路線の時間変化は BM25 を不動点とした。2006—2009 年に山頂方向が隆起した量に相当する量の山頂方向の沈降が 2009-2014 年に検出された。木曾温泉路線は 2013 年 8 月にも BM205～BM310 の短い区間のみではあるが測量がおこなわれているため、木曾温泉路線は BM205 を不動点とし、2013 年 8 月の変動を加えた図を示す。2006 年から始まった山頂方向の隆起が 2013 年 8 月まで継続していた可能性がある。



第1図 御嶽山 規制範囲図
 ・赤点線が山頂火口から4kmの範囲

御嶽山の噴火状況等について

※これは速報であり、数値等は今後も変わることがある。
 ※下線部は、前回からの変更箇所。

平成26年10月23日
14時00分 現在
 非常災害対策本部

1 火山活動の状況（気象庁情報：10月17日16:30現在）

(1) これまでの火山活動状況等

- ・9月27日11時41分頃から火山性微動が発生し始め、同11時52分頃に噴火が発生。中部地方整備局設置の滝越カメラにより、南側斜面を火砕流が3キロメートルを超えて流れ下るのを観測。噴火警戒レベル3（入山規制）を発表し、火口から4キロメートル以内に立ち入らないように呼びかけ。現在も引き続き、火山活動は高まった状態で推移。
- ・御嶽山で噴火が発生したのは、平成19年（2007年）3月下旬のごく小規模な噴火以来。
- ・9月27日に気象庁が降灰の拡がりについて聞き取り調査を行った結果、御嶽山の西側の岐阜県下呂市萩原町から東側の山梨県甲府市飯田にかけての範囲で降灰を観測。
- ・9月27日の噴火前から連続して発生している火山性微動は、検知できない程度の大きさになっている（10月17日16時現在）。
- ・傾斜計などの観測データに特段の変化はみられない（10月17日16時現在）。
- ・10月16日09時頃から航空自衛隊の協力で実施した上空からの観測では、白色の噴煙が火口縁上100メートルで北東方向に流れていた。風下側では硫化水素臭が認められた。
- ・10月17日15時20分現在、噴煙は白色で、高さは火口縁上200メートルで南に流れている。

【噴火警報の発表状況等】

- 9月27日12時36分 噴火警報発表（火口周辺警報）
 噴火警戒レベル1（平常） → レベル3（入山規制）
 ※噴火警戒レベル3は、平成20年3月31日の御嶽山の噴火警戒レベルの運用開始以来初めて。
- 9月27日13時35分 ～ 10月10日15時5分 降灰予報を約6時間毎に発表し、降灰の予想される地域を図示（火口縁上300m程度の有色噴煙が観測された場合に発表することとしているが、現在噴煙の高さが低く、白色であるため、発表していない。）
- 9月27日16時 ～ 火山の状況に関する解説情報を概ね3時間毎に発表
- 9月28日19時30分 噴火警報（火口周辺警報）を更新し、火砕流に対して警戒を呼びかける
- 対象市町村等
 - ・長野県：王滝村、木曾町
 - ・岐阜県：高山市、下呂市
- 防災上の警戒事項
 - ・火口から4キロメートル程度の範囲では大きな噴石の飛散や火砕流に警戒が必要
 - ・風下側では4キロメートル以遠も含めて降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要
 - ・爆発的な噴火に伴う大きな空振に注意が必要

2 人的・住家被害の状況

(1) 人的被害

ア 死者（警察庁情報：10月23日13:00現在）

57人（身元判明者57人）

イ 行方不明者（長野県御嶽山噴火災害対策本部情報）

6人

※問合せの情報等を基に集計したものであり、今後変動することがある。

ウ 負傷者（消防庁情報：10月17日18:30現在）

69人（長野県59人（重傷27、軽傷32）、岐阜県10人（重傷2、軽傷8））

(2) 建物被害（消防庁情報：10月17日18:30現在）

確認中

3 避難等の状況

(1) 避難等の状況（警察庁調べ：10月16日17:30現在）

- ・9月27日15:15頃、頂上山荘約100人の登山者は下山開始との情報。御嶽神社の山小屋の46人については、下山中との情報。
- ・9月28日6:15、五の池小屋の残留者については、岐阜県警察山岳警備隊等の誘導により下山を開始。11:19、全員無事下山。
- ・これまでに、約190人（長野県側約160人、岐阜県側30人）の下山を確認。
- ・山小屋等に残留していた生存者は全員下山。残留者なし。（9月28日16:20）

(2) 避難勧告等の状況（消防庁調べ：10月17日18:30現在）

- ・長野県木曾町 避難勧告発令26世帯71名（10月13日16:30）→解除（10月14日5:50）
- ・長野県王滝村 避難勧告発令10世帯14名（10月5日16:37）→解除（10月6日13:33）
避難勧告発令10世帯14名（10月13日15:30）→解除（10月14日5:00）

4 その他の状況

(1) 土砂災害（国土交通省調べ：10月17日15:00現在）

- ・土石流等（1県で2件発生）
長野県 2件（王滝村2）

(2) ライフライン

ア 電力（経済産業省調べ：10月7日16:30現在）

被害情報なし

イ ガス（経済産業省調べ：10月7日16:30現在）

被害情報なし

ウ 通信（総務省調べ：10月14日16:00現在）

- ・固定電話、携帯電話等
被害なし
- ・放送関係
被害なし

エ 水道（厚生労働省調べ：10月11日17:00現在）

【長野県】

- ・降灰量の多かった木曾町、大滝村及び下流の木曾地域4町村には注意を呼びかけており、各町村において施設の見回り等を実施。

【長野県木曾町】

- ・河川原水の水質検査の強化を実施。万が一異常が発見された場合は取水を一時停止し、対処する体制を整えている。
- ・木曾町北部簡易水道の水源に白濁を確認したため取水を一時停止。木曾町自己所有の給水車（2台：1.5t、6.5t）と松本市、塩尻市、安曇野市（各市1台：2t）より派遣された給水車により配水池への給水を行い断水は回避。（10月5日22:20頃）
- ・水源の水質検査を行い、安全性が確認出来たため、河川からの取水を再開。これに伴い配水池への応急給水終了。断水は行わず。（10月6日18:30頃）

(3) 道路関係（国土交通省調べ：10月17日15:00現在）

- ・現時点で被害情報なし

(4) 鉄道関係（国土交通省調べ：10月17日15:00現在）

- ・御岳ロープウェイは運転休止（9月27日12:55）。

(5) 農林水産関係（農林水産省調べ：10月9日15:00現在）

- ・被害状況等について調査中

(6) 文教施設関係（文部科学省調べ：9月28日20:00現在）

- ・現時点において、被害情報なし

(7) その他

(7) DMATの活動関係（厚生労働省調べ：10月11日17:00現在）

- ・長野県がEMISを災害モードに切り替え（9月27日15:43）
- ・岐阜県がEMISを警戒モードに切り替え（9月27日18:05）
- ・岐阜県がEMISを災害モードに切り替え（9月27日22:14）
- ・岐阜県がEMISを警戒モードに切り替え（9月28日14:29）
- ・長野県から近隣5県に対しDMATの派遣要請（9月27日20:00）
- ・長野県はDPATの派遣を決定（9月28日12:41）
- ・長野県立木曾病院にDPATを1チーム派遣し、活動開始（9月28日14:40）
- ・役割を分担し、DPATは長野県立木曾病院で精神科医療的な支援を継続し、日赤こころのケア班は遺体安置所でご遺族に対する心理的なケア、保健師は待機されているご家族の方への対応、精神保健福祉センターはコーディネートを担当。
- ・長野県立こころの医療センター駒ヶ根及び日赤こころのケア班等の医療関係者が集まり、「被災者家族サポートチーム」を結成し、家族待機施設3か所を巡回し、常駐している町保健師と連携し、待機しているご家族の心身のケアに対応（10月1日～）
- ・DPATの活動を終了。また、「被災者家族サポートチーム」を縮小し、以降は家族待機施設1か所において対応。（10月3日）
- ・DMATの活動（10月1日8:00現在）
長野県側：活動終了（最大時26チーム）
岐阜県側：活動終了（最大時1チーム）

(4) 御遺体の搬送（国土交通省調べ：10月17日15:00現在）

- ・長野県からの要請により、長野県トラック協会、全国霊柩自動車協会が御遺体の搬送のための車両を手配（延べ55両（予定分含む））（9月28日～）

5 政府の主な対応

(1) 官邸の対応

- ・情報連絡室を設置（9月27日13:23）
- ・官邸連絡室へ改組（9月27日14:30）
- ・官邸対策室へ改組（9月28日14:00）

(2) 総理指示

・御嶽山の火山活動に関し、安倍内閣総理大臣から以下の指示が発せられた。（9月27日14:30）

1. 早急に被災状況の把握を行うこと
2. 被災者の救助に総力を挙げるとともに、避難誘導等登山者や住民の安全の確保に万全を期すこと
3. 火山の観測を強化し、登山者及び住民に対する迅速的確な情報提供を行うこと

(3) 非常災害対策本部の設置等

- ・御嶽山噴火に係る関係省庁担当者会議を開催（9月27日15:00）
- ・山谷内閣府特命担当大臣（防災）、松本内閣府大臣政務官出席のもと、関係省庁災害対策会議を開催し、今後の火山活動の見通し及び被害状況並びに各省庁の対応状況について情報共有を行った（9月27日16:40）
- ・関係閣僚会議を開催（9月27日）
- ・関係省庁関係局長級会議を開催（9月27日19:28）
- ・山谷内閣府特命担当大臣（防災）出席のもと、関係省庁災害対策会議（第2回）を開催し、阿部長野県知事、山岡名古屋大学大学院環境学教授とテレビ会議を行うとともに、今後の火山活動の見通し及び被害状況並びに各省庁の対応状況について情報共有を行った。（9月28日13:00）
- ・西村内閣府副大臣を団長とする政府調査団を長野県に派遣（9月28日12:50）
- ・内閣危機管理監より捜索関係省庁担当局長に対し、以下の内容が通知された。（9月28日14:30）
 - 1. 被害者の迅速な救出・救命に全力を尽くすこと
 - 2. 火山活動の監視、滑落の防止等、捜索従事者の安全確保に万全を期すこと
 - 3. 危険を察知した場合には、直ちに作業を中止し、安全なところに退避すること
- ・御嶽山の噴火により多数の犠牲が生じており、なお多数の行方不明者が存在するという事態を踏まえ、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第24条第1項の規定に基づき、平成26年（2014年）御嶽山噴火非常災害対策本部を格上げ設置するとともに、長野県庁に松本内閣府大臣政務官を本部長とする非常災害現地対策本部を設置することを決定した。（9月28日17:00）
- ・山谷内閣府特命担当大臣（防災）出席のもと、第1回非常災害対策本部会議を開催し、西村内閣府副大臣による政府調査団の報告を行った。また、山岡名古屋大学大学院環境学教授とテレビ会議を行うとともに、今後の火山活動の見通し及び被害状況並びに各省庁の対応状況について情報共有を行い、災害応急対策に関する基本方針を決定した。（9月28日19:00）

【災害応急対策に関する基本方針】

関係地方公共団体と連携を密にし、国民の生命、財産を守るため、対応に全力を尽くす。

- ① 引き続き、行方不明者の安否確認、救助に全力を尽くすこと
- ② 噴石、火山ガス、土石流発生などによる二次災害を防止し、救助活動の安全確保に万全を期すこと
- ③ 火山活動に対する徹底した監視体制を確保し、さらなる被害の拡大防止を図ること

- ・非常災害対策本部の事務の一部を行う組織として、平成26年（2014年）御嶽山噴火非常災害現地対策本部（本部長：松本内閣府大臣政務官）を設置（構成：内閣府、警察庁、消防庁、農林水産省、林野庁、国土交通省、国土地理院、気象庁、防衛省）（9月28日22:00）
- ・災害対策基本法第25条第6項の規定に基づき長野県に設置している現地対策本部について、所管区域内における救助捜索活動の終了に伴い廃止した（10月17日13:30）。

【非常災害対策本部の実施状況】（第2回以降）

回	実施日時	出席者
第2回	9月29日 17:30	山谷非常災害対策本部長、松本非常災害現地対策本部長 他(※)
第3回	9月30日 17:30	山谷非常災害対策本部長、松本非常災害現地対策本部長 他(※)
第4回	10月1日 18:10	山谷非常災害対策本部長、松本非常災害現地対策本部長 他(※)
第5回	10月2日 17:30	山谷非常災害対策本部長、松本非常災害現地対策本部長 他(※)
第6回	10月3日 17:30	山谷非常災害対策本部長、松本非常災害現地対策本部長 他(※)
第7回	10月5日 16:30	山谷非常災害対策本部長、松本非常災害現地対策本部長 他(※)
第8回	10月6日 16:40	西村非常災害対策副本部長、松本非常災害現地対策本部長 他(※)
第9回	10月7日 18:10	山谷非常災害対策本部長、松本非常災害現地対策本部長 他(※)
第10回	10月8日 18:00	山谷非常災害対策本部長、松本非常災害現地対策本部長 他(※)
第11回	10月10日 18:15	山谷非常災害対策本部長、松本非常災害現地対策本部長 他
第12回	10月14日 17:05	山谷非常災害対策本部長、松本非常災害現地対策本部長 他(※)
第13回	10月15日 17:15	山谷非常災害対策本部長、松本非常災害現地対策本部長 他(※)
第14回	10月16日 19:30	山谷非常災害対策本部長、松本非常災害現地対策本部長 他(※)

※山岡名古屋大学大学院環境学研究科教授とテレビ会議を実施

(4) 自衛隊の災害派遣

① 概要

- ・要請日時 平成26年9月27日14:31
- ・要請元 長野県知事
- ・要請先 陸上自衛隊第13普通科連隊長（松本）
- ・要請の概要 人命救助
- ・発生場所 長野県御嶽山

② 活動規模（10月16日17:30現在）

- ・人員 約600名（延べ7,150名）
- ・車両 約130両（延べ1,835両）
- ・航空機 17機（延べ298機）

③ 活動内容

- 航空偵察（映像配信）、人命救助（23名）、心肺停止者の搬送（56名）、関係機関職員の輸送（1,150名）
- ・山頂付近一帯の航空偵察を実施（9月27日～）
 - ・黒沢口、田の原口及び開田口の各登山口より徒歩又はヘリコプター（CH-47）で山頂付近へ移動し、到着後捜索・救助活動を実施（9月28日～）
 - ・ヘリコプター（UH-60）によるホイスト吊り上げ等により、剣ヶ峰山荘付近で6名、覚明堂付近で17名をそれぞれ救助（9月28日）
 - ・徒歩及びヘリコプター（UH-60及びCH-47）により、頂上付近の心肺停止者56名を搬送（9月28日～）
 - ・航空機による関係機関職員（警察延べ485人、消防延べ665人）の輸送（9月29日～）

(5) 災害救助法の適用

- ・平成26年9月27日の御嶽山噴火により、多数の者が生命又は身体に危害を受け、又は受けるおそれが生じており、継続的に救助を必要としているため。
 長野県：木曾郡木曾町（きそぐんきそまち）（9月27日適用）
 木曾郡王滝村（きそぐんおうたきむら）（9月27日適用）

6 各府省庁の対応

(1) 内閣府の対応

- ・情報対策室を設置（9月27日 12:36）
- ・内閣府参事官を団長とする情報先遣チーム（団長以下3名）を長野県へ派遣（9月27日）

(2) 警察庁の対応

- ・災害情報連絡室設置（9月27日 13:23）
- ・警備課長を長とする災害警備連絡室へ改組（9月27日 14:30）
- ・警備局長を長とする災害警備本部へ改組（9月28日 14:00）
- ・次長を長とする非常災害警備本部へ改組（9月28日 17:00）

【警察措置】

（9月27日）

- ・長野県警がヘリにより情報収集
- ・長野県警察機動隊12人出動（9月27日 13:55）
- ・長野県警察管区機動隊員約70人出動（9月27日 14:17）
- ・長野県警察機動隊、管区機動隊は登山口の黒沢口、王滝口、開田口で各10人が待機
- ・岐阜県警察山岳警備隊3人は登山客等とともに五の池小屋に残留
- ・長野県警察は、警察本部及び木曽警察署に登山者に関する情報・相談フリーダイヤルを設置。（県警本部：0120-008-046、木曽警察署：0120-007-285）
- ・岐阜県警察は、相談ダイヤルで情報を受付。（県警本部：058-271-2424、下呂署：0576-52-0110、高山署：0577-32-0110）
- ・現地指揮所を田の原観光センターに設置。

（9月28日：12:00現在）

- ・長野県警察は、7:40から黒沢口より16人、9:56から王滝口より27人が消防及び自衛隊とともに登山を開始。（長野県警察は総勢約160人体制）山頂付近で救出救助活動を実施、生存者7名を救助。）
- ・岐阜県警察は、4:30から山岳警備隊等11人が市職員14人及びDMAT2人とともに登山、6:15から五の池小屋の残留者の下山誘導を実施、11:19に全員無事下山。また、総勢80人体制で災害警備活動を実施。
- ・岐阜県警察が、ヘリにて五の池小屋かた下山中の40歳女性をホイスト救助。
- ・他、詳細は既報のとおり

（9月29日）

- ・長野県警察は約300人体制で、岐阜県警察は約80人体制で、捜索及び救出救助活動を実施。
- ・他、詳細は既報のとおり

（9月30日）

- ・長野県警察は400人体制で、岐阜県警察は80人体制で、捜索及び救出活動を実施。
- ・他、詳細は既報のとおり

（10月1～4日）

- ・長野県警察は約600人体制で、岐阜県警察は約100人体制で、救出救助、捜索、検視等を実施。
- ・他、詳細は既報のとおり

（10月5日）

- ・長野県警察は約600人体制で、岐阜県警察は約100人体制で、救出救助、捜索、検視等を実施予定であったところ、降雨のため、5:04に捜索活動中止が決定。
- ・他、詳細は既報のとおり

（10月6日）

- ・長野県警察は約600人体制で、岐阜県警察は約100人体制で、救出救助、捜索、警察ヘリによる情報収集等を実施予定であったところ、台風第18号接近の影響により、捜索活動中止が決定。
- ・他、詳細は既報のとおり

(10月7～8日)

- ・長野県警察は約600人体制で、岐阜県警察は約100人体制で、救出救助、捜索等を実施。
- ・他、詳細は既報のとおり

(10月9日)

- ・長野県警察は約750人体制で、岐阜県警察は約100人体制で、救出救助、捜索等を実施。
- ・他、詳細は既報のとおり

(10月10日)

- ・長野県警察は約750人体制で、岐阜県警察は約100人体制で、救出救助、捜索等を実施。
- ・他、詳細は既報のとおり

(10月11日)

- ・長野県警察は約750人体制で、岐阜県警察は約100人体制で、救出救助、捜索等を実施。
- ・他、詳細は既報のとおり

(10月12日)

- ・長野県警察は約750人体制で、岐阜県警察は約100人体制で、救出救助、捜索等を実施。
- ・長野県警察は、台風19号の接近に伴う長野県災害対策本部の決定を受け、10月13、14日の捜索活動中止を決定。
- ・他、詳細は既報のとおり

(10月13日)

- ・長野県警察では、被災者に関する情報収集や被災者家族への支援等の諸活動を実施。

(10月14日)

- ・長野県警察では、被災者に関する情報収集や被災者家族への支援等の諸活動を実施。
- ・警視庁は、機動隊員90名を長野県警察に派遣。

(10月15日)

- ・長野県警察は約750人体制で、岐阜県警察は約120人体制で、救出救助、捜索等を実施。
- ・11:00、山頂付近の天候により、全部隊の捜索活動中止が決定。(15:35下山完了)
- ・他、詳細は既報のとおり

(10月16日)

- ・長野県警察は約750人体制で、岐阜県警察は約120人体制で、救出救助、捜索等を実施。
- ・長野県警察は、5:30、機動隊員17人が先遣班(後発の部隊は157人)として、黒沢口、王滝口から順次登頂、救出救助活動に従事。
- ・長野県警察では、被災者に関する情報収集や被災者家族への支援等の諸活動を実施。
- ・岐阜県警察は、6:00以降、県機動隊員31人(岐阜県警独自部隊)が王滝口、小坂口から順次登頂、救出救助活動に従事。
- ・岐阜県警察は、6:00、管区機動隊員36人(特別派遣部隊)が王滝口から順次登頂、救出救助活動に従事。
- ・岐阜県警察では、引き続き被災者に関する情報収集等を実施。
- ・警視庁は、6:00、機動隊員等80人が黒沢口、王滝口から順次登頂、救出救助活動に従事。
- ・長野県警察では警察ヘリが6:09からフライト、現場付近のヘリテレ映像を官邸等に送信。
- ・埼玉県警察は、長野県警察に警察ヘリ1機を派遣。警察ヘリが8:05からフライト、現場付近のヘリテレ映像を官邸等に送信。
- ・岐阜県警察は、長野県警察に警察ヘリ1機を派遣。警察ヘリが9:25からフライト、現場付近のヘリテレ映像を官邸等に送信。

(3) 消防庁の対応

- ・災害対策室設置(9月27日14:30)
- ・消防庁長官を長とする災害対策本部へ改組(9月28日17:00)
- ・9月27日20:30、長野県知事から消防庁長官に対して、緊急消防援助隊の派遣要請。ただちに消防組織法第44条第1項に基づき、消防庁長官から火山性ガス検知資機材(LCD3.3)を保有する高度救助隊及び山岳救助隊について、愛知県、静岡県、東京都、山梨県の4都県に対して出動要請(9月28日20:30)
- ・緊急消防援助隊の活動調整等のため、消防庁職員1名を長野県に派遣(9月28日6:00)。以下、10月17日まで順次交代要員を派遣(延べ6名)。

- ・火山ガスに対応するための防毒マスク 100 セットを配布 (9 月 30 日 20:30)
- ・火山ガスに対応するためのガス検知器 2 台を配布 (10 月 1 日 18:00)
- ・長野県、岐阜県に対し「御嶽山周辺地域における今後の降雨に対する土砂災害に関する注意事項について」を発出 (10 月 1 日 21:30)
- ・火山ガスに対応するためのガス検知器 30 台を配布 (10 月 4 日 10:00)
- ・火山ガスに対応するための防毒マスク 100 セット、フィルター70 個を配布(10 月 6 日 17:30)
- ・消防庁長官が消防隊員の安全管理の状況を視察 (10 月 9 日 13:50)
- ・捜索活動の体制強化を図るため、消防組織法第 44 条第 1 項に基づき、消防庁長官から岐阜県及び富山県に対して、高度救助隊及び山岳救助隊の出動要請 (10 月 14 日 9:30)
- ・長野県知事からの通知を受け、緊急消防援助隊の引揚げを決定 (10 月 16 日 19:30)。

【消防機関の活動】(10 月 17 日 18:30 現在)

<<消防機関の活動体制>>

- ・長野県知事の方針により大規模な捜索救助活動については、10 月 16 日をもって終了。

(これまでの消防機関の活動)

	活動規模							緊急消防援助隊	合計
	長野県			岐阜県					
	木曾広域消防本部	消防団 (木曾町・王滝村)	県内応援 消防本部	下呂市消防本部	消防団 (下呂市)	県内応援 消防本部			
9月28日(日)	約60名	約70名	約100名	約10名	約10名	約10名	約210名	約470名	
29日(月)	約60名	約30名	約110名	—名	—名	—名	約220名	約420名	
30日(火)	約60名	約5名	約90名	—名	—名	—名	約230名	約385名	
10月1日(水)	約60名	—名	約90名	約10名	—名	約5名	約240名	約405名	
2日(木)	約60名	—名	約80名	—名	—名	—名	約230名	約370名	
3日(金)	約60名	約10名	約80名	—名	—名	—名	約240名	約390名	
4日(土)	約60名	約5名	約70名	—名	—名	—名	約230名	約365名	
5日(日)	約60名	約40名	約70名	—名	—名	—名	約230名	約400名	
6日(月)	約60名	約50名	約70名	—名	—名	—名	約230名	約410名	
7日(火)	約60名	—名	約70名	—名	—名	—名	約220名	約350名	
8日(水)	約60名	—名	約70名	—名	—名	—名	約210名	約340名	
9日(木)	約60名	—名	約70名	—名	—名	—名	約210名	約340名	
10日(金)	約60名	約5名	約70名	—名	—名	—名	約210名	約345名	
11日(土)	約60名	約5名	約70名	—名	—名	—名	約210名	約345名	
12日(日)	約60名	約5名	約70名	—名	—名	—名	約220名	約355名	
13日(月)	約60名	約5名	約70名	—名	—名	—名	約70名	約205名	
14日(火)	約60名	約5名	約70名	—名	—名	—名	約70名	約205名	
15日(水)	約60名	—名	約80名	—名	—名	—名	約300名	約440名	
16日(木)	約60名	—名	約90名	—名	—名	—名	約300名	約450名	
延べ	約1,140名	約235名	約1,490名	約20名	約10名	約15名	約4,080名	約6,990名	

(消防機関による救助・搬送患者数)

	長野県	岐阜県	計
ヘリによる救助・搬送	—	2名	2名
担架による救助・搬送	59名	—	59名
救急搬送	22名	3名	25名
計	81名	5名	86名

※救助・搬送手段を併用している場合や、各部隊が共同で救助・搬送を実施している場合があり、救助数等は重複を含む。

<<地元消防機関の活動状況>>

(長野県)

- ・木曾広域消防本部が、9 月 27 日から 10 月 16 日まで (20 日間) 活動。
- ・長野県防災ヘリコプター1 機が捜索活動及び情報収集活動を実施。

(岐阜県)

- ・岐阜県防災ヘリコプター1 機が救急搬送等を実施。

<<県内応援消防本部の活動状況>>

(長野県)

- ・県内 13 本部（最大）が、9 月 27 日から 10 月 16 日まで（20 日間）捜索救助活動等を実施。

<<緊急消防援助隊>>

- ・長野県知事から消防庁長官に対して、緊急消防援助隊の派遣要請（9 月 27 日 20:30）
- ・ただちに消防組織法第 44 条第 1 項に基づき、消防庁長官から火山性ガス検知資機材(LCD3.3)を保有する高度救助隊及び山岳救助隊について、愛知県、静岡県、東京都及び山梨県の 4 都県に対して、出動要請。
- ・航空体制強化のため、東京消防庁大型ヘリコプターに出動要請（9 月 30 日）
- ・捜索活動の体制強化を図るため、消防組織法第 44 条第 1 項に基づき、消防庁長官から岐阜県及び富山県に対して、高度救助隊及び山岳救助隊の出動要請（10 月 14 日 9:30）
- ・東京消防庁ヘリ 1 機（消防庁ヘリ/ヘリサット搭載）が捜索活動及び情報収集活動を実施。
- ・10 月 16 日 19 時 30 分、長野県知事からの通知を受け、緊急消防援助隊の引揚げを決定。
- ・9 月 27 日から 10 月 16 日まで（20 日間）捜索救助活動等を実施。

(4) 金融庁の対応

- ・災害救助法の適用決定を受け、長野県内の関係金融機関等に対し、財務省関東財務局長野財務事務所長と日本銀行松本支店長の連名で「御嶽山噴火にかかる災害に対する金融上の措置について」を発出し、預金の払戻時の柔軟な取扱い等、被災者の便宜を考慮した適時的確な措置を講ずるよう要請（9月28日）

(5) 総務省の対応

- ・災害救助法の適用を受けた地域を告知先とする無線局免許人に対し、電波利用料債権の催促状及び督促状の送付を停止する措置を実施（9/27長野県木曾郡木曾町、長野県木曾郡王滝村）
- ・ソフトバンクから携帯電話基地局（岐阜県下呂市小坂町落合字唐谷）に係る空中線の指向方向変更の申請があり、臨機の措置により許可（9月30日）
- ・（独）情報通信研究機構（NICT）において、御嶽山噴火周辺地域を分解能30cmの「高分解能航空機搭載映像レーダー（Pi-SAR2）」で観測を実施。火口周辺の詳細な観測結果を火山噴火予知連絡会に提供するとともに同機構のホームページに公開（10月2日）
<http://www2.nict.go.jp/aeri/rrs/pisar2-ontake/>
- ・長野県王滝村及び木曾町に対し、11月に定例交付すべき普通交付税の一部を繰り上げて交付することを決定（現金交付は10月8日）。繰上げ交付額はそれぞれ55百万円と373百万円。（10月7日）

(6) 財務省の対応

- ・王滝村に使用可能な未利用財産（H26.6に情報提供済）があり、改めて、村に対し利用可能である旨電話連絡済。長野県災害対策本部及び自衛隊長野地方協力本部に対し情報提供済。（9月29日）
- ・災害救助法の適用決定を踏まえ、長野県に係る被災中小企業への対応として、窓口における親身な対応、資金の円滑な融通等を要請する通知文書を、財務省・厚労省・中企庁の連名で日本政策金融公庫等に対して発出（9月29日）
- ・御嶽山噴火に係る災害を危機認定し、日本政策金融公庫から指定金融機関（日本政策投資銀行、商工組合中央金庫）を通じた危機対応融資の対象に追加、財務省、中小企業庁及び農林水産省の連名で指定金融機関に対して同内容の通知文書を発出（9月29日）

(7) 文部科学省の対応

- ・災害情報連絡室設置（9月27日16:40）
- ・関係県教育委員会に対し、児童生徒等の安全確保と文教施設の被害状況の把握、二次災害防止を要請（9月27日17:50）
- ・大臣官房長を長とする文部科学省災害応急対策本部を設置（9月28日17:00）
- ・独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）は陸域観測技術衛星2号「だいち2号」により、御嶽山の緊急観測を行い、取得したデータを JAXA と防災関連機関との間の災害に関する衛星情報提供協力の枠組みに基づき、火山噴火予知連絡会（事務局：気象庁）及び内閣府（防災担当）からの要請により随時提供中（9月28日～）。
- ・科学技術・学術審議会測地学分科会地震火山部会を開催し、災害の軽減に貢献するための研

究の充実・強化、研究人材の育成方策等について検討（10月10日～）。

- ・御嶽山で発生した水蒸気噴火に関する総合調査について、名古屋大学等の研究者に、科学研究費補助金（特別研究促進費）を交付することを公表（10月17日）。

(8) 農林水産省の対応

- ・中部森林管理局がヘリコプターによる現地調査を実施（9月28日）
- ・木曾町役場、王滝村役場、長野県木曾地方事務所にリエゾンを派遣（9月28日）
- ・災害救助法が適用された長野県の関係金融機関に対し、関東農政局から通帳等を紛失した預貯金者等に対する応急措置の要請通知を发出（9月29日）
- ・御嶽山の噴火に伴う降灰等による農作物被害等に対する技術指導に当たっての留意事項及び農業共済の対応について通知を发出（9月29日）
- ・中部森林管理局が噴火により発生した土石等の流出による二次災害防止対策として、治山ダムを除石工事を実施（10月1日）
- ・林野庁担当官1名と専門家（森林総合研究所）を現地へ派遣（10月1日～2日）
- ・中部森林管理局が噴火により発生した土石等の流出による二次災害防止対策として、監視カメラ及び土石流センサーを関係機関と連携して設置（10月4日）
- ・中部森林管理局が濁沢川に設置した土石流センサーが作動したことから監視カメラ等により確認するとともに下流に被害が及んでいないことを確認（10月5日）
- ・中部森林管理局が濁沢川の状態を確認するために中部地方整備局及び専門家（信州大学教授、国土技術政策総合研究所、土木研究所）とともに濁沢川流域の調査を実施（10月6日）
- ・中部森林管理局が台風18号通過後の御嶽山周辺の国有林の状態を把握するため、専門家（信州大学教授、森林総合研究所）とともにヘリコプターによる調査を実施（10月7日）
- ・中部森林管理局が台風18号による降雨で中断していた治山ダムの除石工事を再開（10月8日）

(9) 厚生労働省の対応

- ・厚生労働省情報連絡室を設置（9月27日15:00）
- ・厚生労働省災害対策本部を設置（9月28日18:00）
- ・厚生労働大臣指示
 - ①関係地方自治体と連携し、状況の把握に努めること
 - ②被災者の人命救助のため、医療の提供に万全を期すこと。
- ・通知等の発出状況
 - （医療保険関係）
 - 1) 各医療保険者等及び関係機関に対して、災害により被災した被保険者に係る保険料（税）・一部負担金の減免を行うことができる旨を周知（9月29日）
 - 2) 被災に伴い被災者が被保険者証を保険医療機関に提示できない場合においても、受診が可能である旨を都道府県等に連絡（9月29日）
 - （被災した要介護高齢者等への対応）
 - 1) 9月27日の災害救助法の適用を受け、今般の災害により被災した世帯の要介護者の対応について、保険者に対し、特段の配慮（被災し利用者負担をすることが困難な者について、利用者負担の減免ができるなど）をお願いする旨通知（9月29日）
 - （被災した要援護障害者等への対応について）
 - 1) 9月27日の災害救助法の適用を受け、今般の災害により被災した世帯の要援護障害者等の対応について、長野県に対し、特段の配慮（被災し利用者負担をすることが困難な者について、利用者負担の減免ができるなど）をお願いする旨通知（9月29日）
 - （被災者及び家族（遺族含む）への心理的ケアの対応について）
 - 1) 各都道府県・指定都市に対し、被災者および家族への心理的ケアに関する相談について精神保健福祉センター等での対応を依頼。さらに国立精神・神経医療研究センターの災害時こころの情報支援センターにおいて支援者に対する技術的な支援等を行うことができる旨周知（10月1日）。
- （復旧工事等における労働災害防止の徹底について）
 - 1) 公共工事発注機関等に対し、緊急復旧工事その他建設工事の発注及び施工管理に当た

っての労働災害防止対策の徹底について要請した。(10月9日)

(10) 経済産業省の対応

- ・長野県に災害救助法が適用されたことを踏まえ、被災中小企業・小規模事業者対策として、特別相談窓口の設置、災害復旧貸付の適用、既往債務の返済条件緩和等、小規模企業共済災害時即日貸付の適用の措置を講じた。(9月29日)
- ・御嶽山噴火に係る災害を危機認定し、日本政策金融公庫から指定金融機関(日本政策投資銀行、商工組合中央金庫)を通じた危機対応業務の対象に追加。財務省、中小企業庁及び農林水産省の連名で指定金融機関に対して同内容の通知文書を発出(9月29日)
- ・災害救助法の適用決定を踏まえ、長野県に係る被災中小企業・小規模事業者への対応として、窓口における親身な対応や資金の円滑な融通等を要請する通知文書を、中小企業庁及び財務省の連名で、日本政策金融公庫、商工組合中央金庫及び全国信用保証協会連合会に対して発出(9月29日)

(11) 国土交通省の対応

【国土交通省本省体制】

- ・非常体制(9月27日13:45)
- ・非常災害対策本部(9月28日17:00)

【リエゾンの派遣】

- ・自治体支援(長野県、長野県王滝村、長野県木曾町、岐阜県、岐阜県高山市、岐阜県下呂市)のため最大11名派遣(9月27日~10月17日)。

【専門家の派遣】

- ・国総研、土研より砂防専門家最大3名を派遣(国総研1名:9月27~29日、10月2~3日、10月5~7日、10月13~15日)(土研1名:9月27日~10月1日、1名:9月27日~10月3日、1名:10月5~7日、1名:10月13~14日)(噴火・降灰の状況把握と二次災害防止対策の検討・助言するため)

【災害対策用機械等出動状況】(10月17日15:00現在(撤収済を除く))

出動先	出動理由	機械名	台数	状況
長野県木曾郡木曾町開田高原西野(鹿ノ瀬川現場)	砂防堰堤設置作業	分解組立型遠隔操作式バックホウ	1	稼働後待機中
長野県木曾郡王滝村濁川	土石流監視	Ku-SAT	1	稼働中
名古屋大学地震火山緊急センター	映像配信	Ku-SAT	1	稼働中

※災害対策用機械を最大16台派遣

- ・9月27日より照明車両5台が徒歩下山者及び自衛隊等入山の支援のため稼働
- ・木曾町の要請を受け、町道の降灰除去作業を中部地整の路面清掃車3台、散水車2台で実施。町道鹿ノ瀬線の降灰除去は4:20作業終了。

【二次災害防止対策】

○土砂災害防止法に基づく緊急調査に着手(9月28日)

○TEC-FORCEの派遣

- ・救助・下山支援及び被災状況把握、応急対策実施ため、最大19名派遣(9月27日~10月15日)

○防災ヘリコプターによる被害状況調査

- ・中部地方整備局防災ヘリコプターによる御嶽山上空からの調査を実施(9月27日15:20~)。山頂南西側大きく開いた3カ所の噴火口、山頂付近に厚さ50cmの降灰を確認。
- ・中部地方整備局防災ヘリコプターによる砂防専門家等の御嶽山上空からの降灰状況調査を実施(9月28日2回、9月29日1回、9月30日1回)。
- ・関東地方整備局防災ヘリコプターによる御嶽山上空からの降灰状況調査を実施(9月30日1回)
- ・中部地方整備局防災ヘリコプターによる御嶽山上空から台風第18号に伴う降雨後の被災状況調査を実施(10月7日)
- ・中部地方整備局防災ヘリコプターによる御嶽山上空から台風第19号に伴う降雨後の被災状況調査を実施(10月15日)

○地上における状況調査

- ・地上より降灰調査を実施。UAV（無人ヘリ）を用いて立入規制区域を含めて調査を実施（9月29日）

○関係自治体への情報提供

- ・関係する県、市町村、関係機関等に、今後の注意事項をとりまとめた「救助活動等における土砂災害への警戒について」を配布し、救助関係機関が活用。
- ・関係自治体に対して、「御嶽山周辺地域における今後の降雨に対する土砂災害に関する注意事項」の情報提供を実施。
- ・御嶽山における降灰後の土石流に関するシミュレーション結果を実施し、とりまとめた結果を長野県、木曾町、王滝村に報告するとともに公表（10月3日）
- ・関係自治体に対して、ヘリコプター及び地上からの調査による台風18号に伴う降雨後の溪流状況の情報提供を実施。（10月7日）
- ・関係自治体に対して、ヘリコプター及び地上からの調査による台風19号に伴う降雨後の溪流状況の情報提供を実施。（10月15日）

○今後の応急対策に資する備蓄資材（大型土のう袋等）を確保済み。

○監視カメラとワイヤーセンサーの設置状況

河川名	監視カメラ	ワイヤーセンサー	機関名
湯川	10月7日 設置完了	10月9日 設置完了	国土交通省
	10月2日 設置完了	10月2日 設置完了	長野県
白川	10月3日 設置完了	10月2日 設置完了	長野県
濁沢川	10月2日 設置完了	10月3日 設置完了	国土交通省
冷川	10月2日 設置完了	10月3日 設置完了	国土交通省
鹿ノ瀬川	10月2日 設置完了	10月4日 設置完了	国土交通省

○砂防堰堤設置

- ・流域に火山灰が堆積した溪流のうち、砂防堰堤が設置されていない鹿ノ瀬川に、コンクリートブロック積堰堤1基（4tブロック使用）を設置中（10月2日～）

【その他】

- ・長野県道1路線で噴火による通行規制を実施中（9月27日14:20～）
- ・町道鹿ノ瀬線、屋敷野線、千本松線、寒原倉越線、村道41号線について噴火による通行規制中
- ・気象庁発表の火山灰情報に基づき、火山灰の影響する高度、移動方向等に関する航空情報（ノータム）を発行（9月27日12:21）。以降、継続して発行（65通目10月10日21:16）
- ・防衛省と調整し、「9月28日19時05分から追って通知するまで、全ての有視界飛行方式で飛行する航空機は、救難活動への干渉を避けるため、御嶽山の半径5NM（約9.3km）以内、地上から11,000ft（約3,400m）までの範囲で他の航空機に特に注意すること」を内容とする航空情報（ノータム）を発行（9月28日11:51に発行した航空情報を更新）（9月28日19:05）
- ・防衛省と調整し、「20時00分をもって注意喚起を終了する」を内容とする航空情報（ノータム）を発行（10月16日20:34）

(12) 環境省の対応

- ・大気汚染（二酸化硫黄や浮遊粒子状物質など）の状況について、監視を行っている長野県・岐阜県と連携を密にし確認中（現時点まで特段の影響は確認されていない）。
- ・水質汚濁（カドミウム、鉛、砒素、pHなど）の状況について、監視を行っている長野県・岐阜県と連携を密にし確認中（現時点まで特段の影響は確認されていない）。

(13) 気象庁の対応

- ・御嶽山の火山活動状況について、御嶽山周辺の地震計、空振計、傾斜計、遠望カメラ等の観測ネットワークにより、24時間体制で監視中。
- ・噴火警報等を発表するとともに、地元自治体をはじめ、関係機関に対する解説及び資料の提供を各地気象台より適宜実施。
- ・気象庁機動調査班（JMA-MOT）を現地に派遣して、噴火の状況や降灰の状況、火山ガスの観測等の調査を実施（長野地方気象台：9月27日13:55～、気象庁：9月27日15:40～）

- ・降灰の拡がりについて気象台から自治体等への聞き取り調査を実施（9月27日～）
- ・火山活動状況に関して記者会見（9月27日14時30分）
- ・御嶽山山頂部における救助活動の実施にあたっての留意事項について長野・岐阜両県等関係機関に周知（9月27日）
- ・長野県の災害対策本部会議に出席（9月27日～）
- ・長野県、岐阜県、各県内関係市町村及び地方整備局等の関係機関に対して、気象支援資料を提供（9月28日5時～ 1日2回、10月1日5時～ 1日3回）
- ・国土交通省中部地方整備局のヘリに同乗し、上空から御嶽山の火山活動の状況を確認（9月28日、10月7日）
- ・陸上自衛隊のヘリに同乗し、上空から御嶽山の火山活動の状況を確認（9月28日午後）
- ・気象庁機動調査班により火山ガス観測等を実施（9月28日）
- ・火山噴火予知連絡会拡大幹事会を開催し（9月28日16時）、統一見解を発表（同日19時頃）
- ・王滝大又（長野県木曾郡王滝村）に臨時雨量観測所を設置（10月3日）
- ・航空自衛隊のヘリに同乗し、上空から御嶽山の火山活動の状況を確認（10月7日午前、9日午前）
- ・気象庁ホームページに火山登山者向けの情報提供ページを新たに設け、提供を開始（10月10日17:00）

(14) 国土地理院の対応

- ・御嶽山の噴火周辺地域の空中写真撮影を実施し、関係機関へ提供（9月28日、10月7日）
- ・電子基準点のGNSS連続観測結果をホームページに公開（特段の変化は見られない）（9月29日）
- ・御嶽山の噴火周辺地域の空中写真および正射画像をホームページで公開（9月28日）
URL : <http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h26-ontake-index.html>
- ・御嶽山の噴火周辺地域の空中写真撮影および航空機SAR観測を実施（9月29、30日）
- ・9月28、29日撮影の斜め写真による3D動画をホームページで公開（9月29日）
- ・9月29、30日に観測したSAR画像から推定した火口位置とSAR画像をホームページで公開（9月30日）URL : <http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h26-ontake-index.html>
- ・人工衛星（だいち2号）データを用いて御嶽山の地表変化を面的に把握しホームページで公表（10月3日）URL : <http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h26-ontake-index.html>